









Scarlett 18i20 4th Gen
User Guide

The Studio 18-in, 20-out interface
Focusrite®

目次

Scarlett 18i20 概要	4
はじめに	4
内容物	4
システム要件	4
ソフトウェアシステム要件	4
Scarlett 18i20 の使用を開始する	5
Scarlett の電源を投入	5
Scarlett 18i20 をラックにマウントする	5
イージースタート	5
Windows	6
Mac	6
すべてのユーザー	7
Focusrite Control 2 について	8
Focusrite Control 2 のインストール	8
手動による製品登録	9
イージースタートを手動で無効にする	9
各部の名称と特徴	10
フロント・パネルの各機能	12
プリアンプの入力ゲインを設定する	12
Select ボタン (1~8)	13
48V ボタン (ファンタム電源)	15
Inst (インストゥルメント) ボタンおよびライン入力	15
<0/>Inst<0/>とラインを切り替える際、ゲイン値は最後に設定されていた値に変更されます。	17
マルチチャンネル・オートゲイン	19
クリップセーフボタン	20
Air モード	21
スピーカー切り替え (Alt)	22
Dim ボタン	23
Output ボタン	23
ミュートボタン	23
出力コントロールおよびレベルメーター	24
Scarlett で ADAT と S/PDIF を使用する方法と同期ステータス	26
トークバック・ボタン	31
ヘッドフォン出力	32
リアパネルの各機能	33
USB 接続	33
S/PDIF 入出力	33
ワード・クロック出力	33
オプティカル接続	33
MIDI	33
スピーカー出力	34
ライン出力	34
マイク入力	34
DAW (録音ソフトウェア) のセットアップ	35

	36
	39
	40
	41
	43
	44
使用例	46
Scarlett 18i20 でバンドのレコーディングを行うには	46
ドラム・キットのレコーディング	47
ハードウェア機材を使った電子音楽のレコーディング	48
アコースティック・セッションのレコーディング	49
スタンドアローン・モード	49
ループバック機能の使用	50
Focusrite Control 2 を Scarlett 18i20 で使用する	51
Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する	51
ミックス	52
ミキサーチャンネルを使用する	53
Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する	54
Focusrite Control 2 で出力をモノラルに変更する	54
ループバック	54
プリセットの使用 Focusrite Control 2	55
プリセットの保存	55
プリセットの読み込み	56
プリセット名の変更	56
Focusrite Control 2 初期設定	57
Sample rate & clocking タブ	57
デバイス・タブ	58
アプリケーション・タブ	58
リモートデバイス - Focusrite Control 2 モバイル・アプリのインストール	59
Focusrite Control 2 および Scarlett 18i20 のアップデート	60
Focusrite Control 2 のアップデート	60
Scarlett 18i20 のアップデート	61
Scarlett 18i20 製品仕様	62
性能仕様	62
物理的特性と電気的特性	62
Scarlett 18i20 各入力チャンネル	64
シングルバンド - 44.1kHz および 48kHz	64
デュアルバンド - 88.1kHz および 96kHz	64
クワッドバンド - 176.4kHz and 192kHz	64
その他の情報	65
トラブルシューティング	65
著作権および法定通知	65
クレジット	66

Scarlett 18i20 概要

Scarlett 18i20 のユーザー・ガイドによろこそ。

はじめに

Scarlett 18i20 第 4 世代へようこそ。

Scarlett 18i20 は、絶えず創作に挑むアーティストのために作られた製品です。最新世代の Scarlett で、どこでも好きな場所でスタジオ品質のサウンドでのレコーディングをお楽しみください。

- **+69dB のゲイン** を各入力に備え、あらゆるマイクやギターの性能を最大限に引き出します。
- レベル設定はわずか数秒で完了でき、**オートゲイン** や **クリップセーフ** 機能を使えば、常に演奏を最高の音質で録音できます。
- 再設計された Air モード (Presence および Harmonic Drive)。
- Focusrite Control 2 ソフトウェアからプリアンプをリモート・コントロール。
- イージースタートのほか、音楽制作に必要なスタジオソフトウェアがすべて付属、すぐにレコーディングが開始できます。
- ADAT で 8 チャンネル (
- Focusrite Control 2 で、完全に独立した 2 系統のヘッドフォン・ミックスを作成可能。

本書は、Scarlett 18i20 ユーザーガイドのバージョン 3.0 です。

内容物

Scarlett 18i20 には以下の同梱物が含まれます。

- Scarlett 18i20
- USB-C to C cable
- USB-A (オス) - USB-C (メス) アダプタ
- Country-specific IEC cable
- 19 インチ・ラックイヤー (取り外し可能)
- Getting Started (梱包箱蓋内部に記載)
- 安全に関する情報ガイド

システム要件

お使いのコンピュータのオペレーティング・システム (OS) が Scarlett 18i20 に対応しているかを確認するには、ヘルプセンターの互換リストをご参照ください。

Focusrite ヘルプセンター : 互換性 <https://support.focusrite.com/hc/en-gb/categories/200693655>

互換性リストは、OS の新バージョンのリリースに応じて随時更新され、ヘルプセンターにてご確認いただけます。

support.focusrite.com

ソフトウェアシステム要件

Focusrite Control 2 がお使いのコンピュータのオペレーティング・システム (OS) に対応しているかを確認するには、ヘルプセンターの互換リストをご参照ください。

Focusrite ヘルプセンター : 互換性 <https://support.focusrite.com/hc/en-gb/categories/200693655>

互換性リストは、Focusrite Control 2 または OS の新バージョンのリリースに応じて随時更新され、ヘルプセンターにてご確認いただけます。

support.focusrite.com

Scarlett 18i20 の使用を開始する

Scarlett の電源を投入

電源アダプターを使用して Scarlett 18i20 の電源を投入するには：

1. Scarlett 18i20 の電源ソケットに電源アダプターを接続します。
2. コンピュータと Scarlett 18i20 を USB ケーブルで接続します。
3. 電源スイッチをオンに切り替えます。

電源が投入され、Scarlett が使用可能になります。



注意

スピーカーの電源は、必ず最後に投入してください。

Scarlett のスピーカー出力には、インターフェースの電源投入時のポップ・ノイズ発生を防止するアンチサンブ技術が搭載されています。事故を確実に防ぐために、レコーディングに使用する他のすべての機器を起動してから最後にスピーカーの電源をオンにする習慣を身につけることをお勧めします。

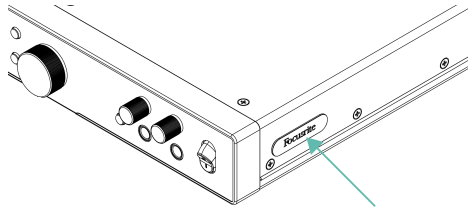
スピーカーの電源を最後にオンしなかった場合、大音量のポップ・ノイズが発生する恐れがあり、スピーカーの損傷に繋がるだけでなく、最悪の場合聴覚に深刻な障害を引き起こす可能性があります。

Scarlett 18i20 をラックにマウントする

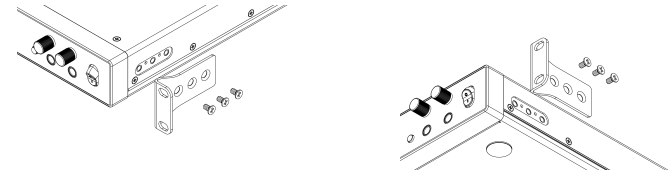
オプションのラックイヤーを使用することで、標準的な 19 インチラックに Scarlett 18i20 を設置できます。

Scarlett 18i20 にラックイヤーを取り付けるには：

1. Scarlett 18i20 の両側にある「Focusrite」ロゴが記載されたゴム製カバーを取り外します。



2. ラックイヤーを Scarlett 18i20 両側のネジ穴に合わせます。
3. 付属の M4 ネジ (6 本) を用いてラックイヤーを Scarlett 18i20 の両側に取り付けます。



注記

ラックイヤーやネジを紛失した場合は、販売代理店にお問い合わせください。

ラックイヤーを取り付けるには、M4 x 8mm ポジドライブ丸頭ネジが必要です。

イージースタート

イージースタートは、Scarlett を手順に沿ってセットアップし、Scarlett の使用用途に応じてパーソナライズされたチュートリアル・リストを作成できるオンライン・ツールです。また、Scarlett の製品登録やバンドル・ソフトウェアのダウンロードなども行えます。

Windows または Mac に Scarlett を接続すると、本体が USB ドライブのような大容量記憶装置 (MSD) としてマウントされます。ドライブを開き、「Click Here To Get Started.url」をダブルクリックします。「Get Started」をクリックすると、イージースタートがウェブブラウザで開かれます。

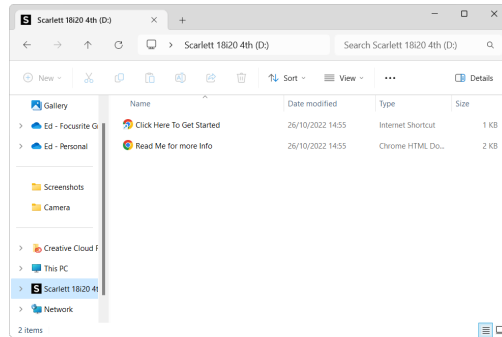
画面の指示に従い必要なソフトウェアをインストールし、Scarlett を使用する準備を行います。

Windows

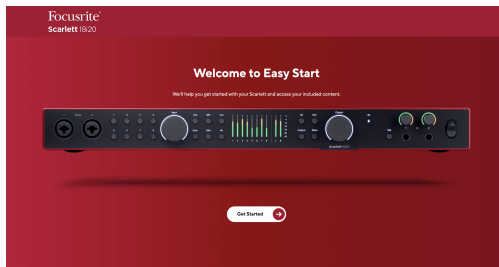
Scarlett 18i20 をコンピュータに接続すると、エクスプローラーに「Scarlett 18i20 4th Gen」というドライブが表示されます。イージースタートはこのドライブから起動できます。

イージースタートを起動するには：

1. エクスプローラーを開きます。
2. Scarlett 18i20 4th Gen (D:) を開きます。ドライブレターは、お使いの環境によって異なる場合があります。



3. Click Here to Get Started をダブルクリックします。Focusrite ウェブサイトが開くので、製品登録を行うことをお勧めします。



4. Get Started をクリックすると、Scarlett の使用用途に応じたセットアップ手順が表示されます。

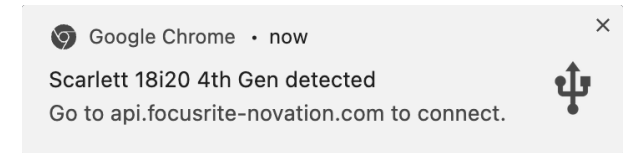
セットアップの際に、Focusrite Control 2 がインストールされます。インストールされた Focusrite Control 2 を起動し、「Update Scarlett 18i20」をクリックします。<Focusrite Control 2 のアップデート中は、Scarlett をコンピュータから切断しないでください。Focusrite Control 2 のアップデートが完了すると、Scarlett はストレージ デバイスとしてコンピュータに認識されなくなります。

オペレーティングシステムにて、Scarlett をコンピュータの規定のオーディオ入出力デバイスとして設定する必要があります。

確認方法：Windows タスクバーのスピーカーアイコンを右クリックし、再生デバイスで Scarlett が選択されているかを確認します。

Mac

Scarlett 18i20 をコンピュータに接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されません。Chrome をお使いの場合は、以下のポップアップが表示されます。

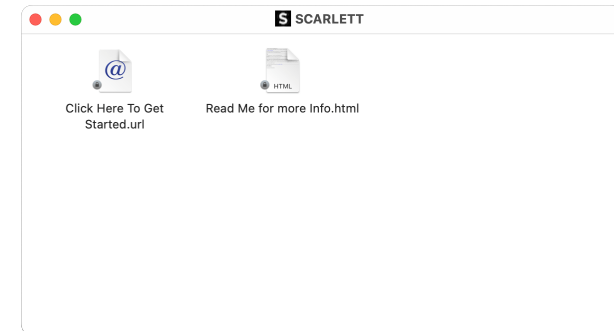


Scarlett イージースタートアイコン：ダブルクリックしてイージースタートを開始 (手順 1)

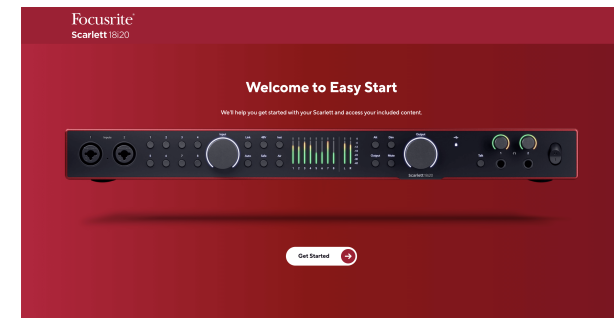
Chrome のポップアップ：クリックしてイージースタートを開始 (手順 2)

イージースタートを起動するには：

1. アイコンをダブルクリックすると、以下の Finder ウィンドウが開きます。



2. Click Here to Get Started をダブルクリックします。Focusrite ウェブサイトが開くので、製品登録を行うことをお勧めします。



3. Get Started をクリックすると、Scarlett の使用用途に応じたセットアップ手順が表示されます。

セットアップの際に、Focusrite Control 2 がインストールされます。インストールされた Focusrite Control 2 を起動し、「Update Scarlett 18i20」をクリックします。<Focusrite Control 2 のアップデート中は、Scarlett をコンピュータから切断しないでください。Focusrite Control 2 のアップデートが完了すると、Scarlett はストレージ・デバイスとしてコンピュータに認識されなくなります。

オペレーティングシステムにて、Scarlett をコンピュータの規定のオーディオ入力デバイスとして設定する必要があります。

確認方法：システム環境設定 > サウンドを開き、再生デバイスで Scarlett 18i20 が選択されていることを確認します。

すべてのユーザー

ドライブ内にある 2 つ目のファイル「More Info and FAQs」を開くと、セットアップで問題が生じた際に役立つ様々な情報にアクセスできます。

製品登録を行うと、以下のリソースにアクセス可能になります。

- Focusrite Control 2 (Mac/Windows 版) - 下記の解説をご参照ください。
- 各国語版ユーザーガイド - downloads.focusrite.com からダウンロード可能です。
- 付属のバンドル・ソフトウェアおよびライセンス・コードへのリンク (Focusrite アカウント内) Scarlett 18i20 付属のバンドル・ソフトウェアに関する詳細は、Focusrite ウェブサイト (focusrite.com/scarlett) をご参照ください。

Focusrite Control 2 について

Focusrite Control 2 は、Scarlett インターフェースをコントロールするためのソフトウェアです。



Focusrite Control 2 アイコン

Focusrite は、お客様が Scarlett 18i20 を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett のアップデートを臨時提供しています。Scarlett 18i20 のファームウェアは、Focusrite Control 2 からアップデート可能です。

Focusrite Control 2 を使うと、お使いのモデルに応じて Scarlett の様々な機能をコンピュータからコントロールできます。



注記

Focusrite Control 2 は主要な読み上げソフトウェアに対応しており、Scarlett の各機能のコントロールが可能です。

Focusrite Control 2 のインストール

Focusrite Control 2 は、Windows および Mac に対応しています。Focusrite Control 2 のダウンロードとインストール手順は以下の通りです。

1. Focusrite のダウンロードページにアクセスします。
[focusrite.com/downloads](https://downloads.focusrite.com/focusrite) <https://downloads.focusrite.com/focusrite>
2. お使いの Scarlett を選択します。
3. お使いのオペレーティング・システム(Windows または Mac)を選択し、Focusrite Control 2 をダウンロードします。
4. コンピュータのダウンロード・フォルダーを開き、Focusrite Control 2 インストーラーをダブルクリックします。
5. 画面の指示に従って Focusrite Control 2 をインストールします。
6. まだ接続していない場合は、Scarlett インターフェースを USB ケーブルでコンピューターに接続します。
7. Focusrite Control 2 を起動すると、Scarlett が自動的に認識されます。



注記

Windows で Focusrite Control 2 をインストールすると、ドライバーも同時にインストールされます。Focusrite Control 2 は、製品登録を行っていない場合でも、downloads.focusrite.com からダウンロード可能です。macOS で本製品を使用する場合はドライバーは不要で、Focusrite Control 2 のインストールのみ必要となります。

手動による製品登録

Scarlett の製品登録を後日行う場合は、customer.focusrite.com/register から登録可能です。

その場合はシリアル番号を手動で入力する必要があります。シリアル番号はインターフェースの底面（下側の白い数字）、または梱包箱のバーコードラベルに記載されています。



重要

使用を開始する際は、Focusrite Control 2 のダウンロードをお勧めします。Focusrite Control 2 を起動するとイージースタート・モードが無効になり、ファームウェアが更新され、Scarlett 18i20 のすべての機能が有効になります。

イージースタート・モードでは、サンプルレートが最大 48kHz に制限されています。Focusrite Control 2 をインストールすることで、最大 192kHz の性能を最大限に活用できます。

イージースタート有効時は、MIDI 入出力も無効となります。

Focusrite Control 2 は、downloads.focusrite.com からいつでもダウンロード可能です。

イージースタートを手動で無効にする

イージースタートによるセットアップ完了後、Focusrite Control 2 をインストールして起動すると、Scarlett のイージースタート・モードは自動的に無効になります。

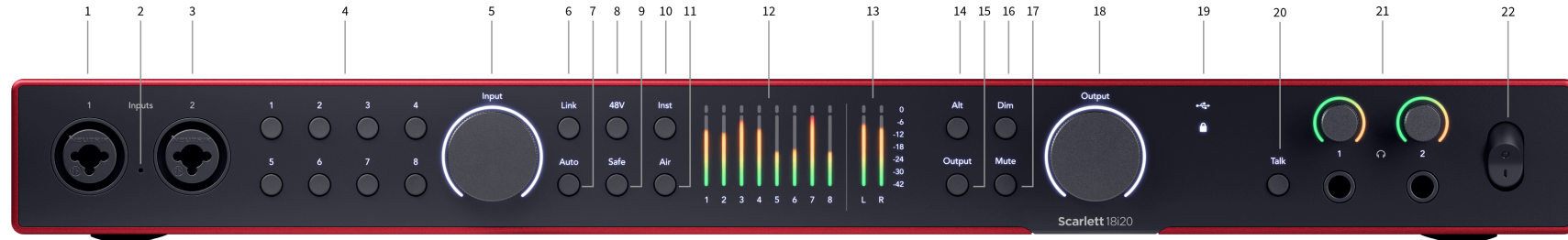
Scarlett 18i20 のイージースタートモードが無効にならない、または Focusrite Control 2 をインストールせずにイージースタート・モードを無効したい場合は、以下の手順に従ってください。

1. Scarlett 18i20 の電源をオフにします。
2. **48V ボタンを押し続けます。**
3. **48V ボタンを押したまま Scarlett 18i20 の電源をオンにします。**
4. フロントパネルが点灯したことを確認し、**48V ボタンを離します。**
5. Scarlett 18i20 を再起動します（電源をオフにしたあと再びオンする）。

以上でイージースタートモードは無効になります。

各部の名称と特徴

フロントパネル



1. 入力 1 Neutrik® コンポ XLR および 6.35mm (1/4 インチ) ジャックコネクタ。XLR マイクレベル入力、またはアンバランスモノラル (TS) およびバランスモノラル (TRS) 1/4 インチジャックケーブルによるライン/楽器レベル入力に対応します。
2. トークバック・マイク・トークバック用マイクはここに搭載されています。
3. 入力 2 Neutrik® コンポ XLR および 6.35mm (1/4 インチ) ジャックコネクタ。XLR マイクレベル入力、またはアンバランスモノラル (TS) およびバランスモノラル (TRS) 1/4 インチジャックケーブルによるライン/楽器レベル入力に対応します。
4. 選択ボタン 1 ~ 8 - ボタンを押すことで、設定を変更したいプリアンプを選択できます。現在選択中のチャンネル番号は緑色に点灯します。
5. 入力ゲイン・コントロール - 選択中のプリアンプの入力ゲイン・レベルを調整します。
6. Link ボタン - 2 つの入力チャンネルをリンクし、ステレオ・ペアに設定します ([Link 参照](#))。 [14] [14]
7. Auto ボタン - オートゲイン機能を開始します ([オートゲインのページ参照](#))。 [17] [17]
8. 48V ボタン - コンデンサー・マイクに電源を供給するための XLR マイク入力の 48V ファンタム電源を有効にします。
48V のオン/オフは、プリアンプ・チャンネル毎に個別に設定できます。
9. Safe ボタン - 選択中の入力でクリップセーフ機能を有効にします ([クリップセーフのページ参照](#))。 [20] [20]
10. Inst ボタン - 選択中の 6.35mm (1/4 インチ) 入力ジャックの信号レベルを、ラインまたはインストゥルメント・レベルに切り替えます。
11. Air ボタン - AIR モードを有効にします ([AIR のページ参照](#))。 [21] [21]
12. メーター 1 ~ 8 - 8 つのメーターで各アナログ入出力の信号レベルを表示します。メーターは右側に記載されるラベルに合わせてスケールされ、-42 ~ 0 dBFS

の範囲で表示されます。Output ボタンを押すと、メーター表示が入力から出力に切り替わります。

入力モードでメーターが赤く点灯した場合は、入力信号が 0dBFS に達したことを意味します。その場合は Input ノブを下げた入力ゲイン抑えることで、入力信号のクリッピングを防止できます。

13. L および R メーター - モニター出力の出力信号レベルを表示します。
14. Alt ボタン - Alt ボタンを押すと、メインのモニター出力 (1 および 2) から 2 番目のモニター出力 (3 および 4) に出力を切り替えることができます。2 種類のモニターを切り替える使い方については、 [Alt をご参照ください](#)。 [22] [22]
15. Output ボタン - メーター 1 ~ 8 が出力 3 ~ 10 の出力レベル表示に切り替わります。(出力 1/2 のレベルは、L および R ボタンで表示されます)。
16. Dim ボタン - ボタンを押すと、出力レベルが 18dB 下がります。
17. Mute ボタン - 出力信号をミュートします。
18. Output ノブおよびゲイン・メーター - デフォルトでは、Output ノブで Output 1 および Output 2 の出力レベルを調整できます。ノブ周囲のメーターは、Output ノブの設定値を表示します。Output ノブは、Output 1/2 以外の出力レベルをコントロールするように設定することも可能です。
19. ステータス・アイコン
 -
 -
20. Talk - Talk ボタンを押している間、トークバック機能が有効になります。トークバックを有効にすると Talk のラベルが緑色に点灯し、トークバック・マイク信号が設定した出力に送信されます (例 : ミュージシャンとやり取りするため、ヘッドフォン出力にトークバック信号を送信)。

21. 

リアパネル



22. 電源スイッチ - 0 はオフ、1 はオンの位置を示します。

- 電源入力 - 標準的な IEC 電源入力。
- USB - Scarlett とコンピュータを接続するための USB-C コネクタ。
- S/PDIF Out および In - 2 つのコアキシャル RCA ソケットで 2 チャンネル S/PDIF デジタル・オーディオ信号の入出力が行えます。Scarlett 18i20 に S/PDIF 機器を接続する方法の詳細は、[Scarlett で ADAT と S/PDIF を使用する方法と同期ステータス \[26\]](#)をご参照ください。
- Word Clock Out (ワード・クロック出力) - 外部デジタルオーディオ機器との同期信号を出力するための BNC コネクタです。
- Optical Out 12 および In 12 - 8 チャンネル・デジタル・オーディオ信号を ADAT フォーマットで送受信するための 4 つの Toslink コネクタです。
- MIDI 出力 と 入力 - 標準的な DIN5 ピン・ソケットで外部 MIDI 機器に接続します。Scarlett 18i20 は MIDI インターフェースとして動作し、コンピュータと MIDI データをやりとりします。
- ライン出力 Outputs 1 ~ 10 - Scarlett をスピーカーまたはアンプ、ミキサー、外部プロセッサなどのライン・レベル入力に接続するための Neutrik® 1/4 インチ・ジャック (TS または TRS) ソケット。接続先の機器がバランス入力に対応している場合は、1/4 インチ TRS ジャック・ケーブルの使用をお勧めします。
- ライン出力 Outputs A (1/2) および B (3/4) - Scarlett を 2 種類のスtereo・スピーカー (A および B) に接続するための Neutrik® 1/4 インチ・ジャック (TS または TRS) ソケット。フロント・パネルの Alt ボタンで、出力するスピーカーを切り替えることができます。
- 入力 1 ~ 8 - Neutrik® コンボ XLR および 6.35mm (1/4 インチ) ジャック・コネクタ。XLR マイクレベル入力、またはアンバランス・モノラル (TS) およびバランス・モノラル (TRS) 1/4 インチ・ジャック・ケーブルによるライン/楽器レベル入力に対応します。入力 1/2 は、フロント・パネルとリア・パネルに重複しています。フロント・パネルの入力 1 および 2 にケーブルが接続されると、リア・パネルの入力ソケットより優先的に使用されます。

フロント・パネルの各機能

本章では、Scarlett 18i20 のフロントパネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

プリアンプの入カゲインを設定する

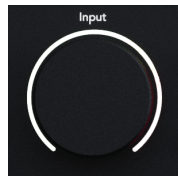
プリアンプの入カゲインを使うと、コンピュータおよび録音ソフトウェアへ送信する信号レベルを調整できます。

最高の音質での録音を行うには、プリアンプの入カゲインを適切に設定することが重要になります。プリアンプの入カゲインが低すぎると入力信号が小さくなります。この状態で録音した信号のレベルを上げると、ノイズが大きく聞こえる場合があります。反対にプリアンプの入カゲインが高すぎると、入力信号がクリップし耳障りな歪みが録音されてしまう可能性があります。

Scarlett 18i20 の入カゲインを調整するには、まず目的のプリアンプを選択する必要があります。選択ボタン (1~8) を押してプリアンプを選択した後、**Input ノブ** で入カゲインを調整します。



入カゲインを上げるには、ゲインノブを時計方向に回します。ゲインノブを回すとゲイン Halo が時計回りに徐々に点灯し、ゲインレベルを表示します。ゲインノブの位置と入カゲイン値の関係は、以下の図の通りです。



1. 入カゲインなし
2. 入カゲイン 25%
3. 入カゲイン 50%
4. 入カゲイン 75%
5. 入カゲイン 100%



ソフトウェアでのゲインコントロール

プリアンプの入カゲインは、Focusrite Control 2 から調整することも可能です。

Focusrite Control 2 でプリアンプの入カゲインを調整するには：

1. ゲインを調整したいチャンネルのバーチャルノブをクリックするか、タブキーでプリアンプのゲインコントロールを選択します。
2. ノブをクリックした状態でマウスを上下に動かすか、矢印キーでゲインを調整します (±1dB 単位)。

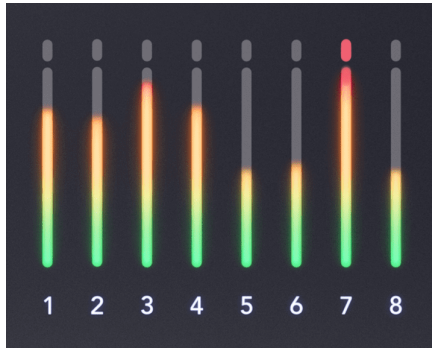
下図は、プリアンプの入カゲインが最小、中間、最大にされた場合のノブの位置を示しています。



入力メータリング

メーター 1 ~ 8 は、Scarlett 18i20 の入力チャンネルの入力レベルを表示します。

プリアンプの入力ゲインを上げたり、またはソース信号レベルが大きくなるとレベル・メーターが上昇し、コンピューターへの入力信号レベルが大きくなったことを示します。



メーターの右側には、-42dBFS ~ 0dBFS の目盛りが記載されています。レコーディングの際は、メーターが -18dBFS 付近を示し、最大レベルのときに -12dBFS に達する様に入力信号レベルを調整することで、適切な信号レベルのレコーディングが可能です。



ヒント

信号がクリップすると、メーター上部のクリップ・インジケーターが赤色に点灯します。クリップ・インジケーターが点灯した場合は、該当するチャンネルを選択し、点灯が消えるまでゲインを下げてください。

Select ボタン (1~8)

Scarlett 18i20 では、フロント・パネルのコントロールを用いて各プリアンプを設定します。選択ボタン 1 ~ 8 を押すことで、設定するプリアンプが切り替わります。



いずれかのプリアンプが常に選択された状態となり、ボタン 1 ~ 8 を押すことで、選択中のプリアンプを切り替えることができます。プリアンプを切り替えると、新たに選択されたプリアンプの番号が緑色に点灯し、各設定の点灯表示が新たなプリアンプの状態に応じて変更されます。

Scarlett 18i20 の電源をオンにすると、前回電源をオフにしたときに選択されていたプリアンプが選択されます。



注記

2つの入力ガリンクされている場合、それらは1つの入力として Select ボタンで選択できます。

プリアンプをリンク

プリアンプをリンクすると、1つのコントロールで2つのプリアンプを同時に制御できます。2つのプリアンプに対して同じゲイン値を設定したり、その他の機能を同時に有効にすることができます。そのため、マイクペア、ステレオシンセサイザー、キーボードなど、ステレオ録音の際に便利な機能です。



注記

プリアンプのリンクは、隣接したチャンネル同士かつ左チャンネルが奇数番号の場合のみ設定できます。たとえば入力チャンネル1と2、3と4はリンクできますが、入力チャンネル2と3をリンクすることはできません。

プリアンプをリンクするには：

1. Select ボタン (1 ~ 8) を押して、ペアのうち一方のプリアンプを選択します。
2. Link ボタンを押すと、2つのプリアンプがリンクします。



プリアンプがリンクされると：

- ・リンクされた2つのプリアンプ番号が緑色に点灯します。



- ・新たにリンクされたプリアンプのゲインレベルは、最小値に設定されます。
- ・プリアンプの設定は、リンク設定時に選択されていたプリアンプから引き継がれます (例えばプリアンプ1が選択された状態でリンクを有効にすると、プリアンプ1の設定 (Air、Safe、Inst 設定がプリアンプ2に反映されます))
- ・プリアンプの設定を変更すると、両方のプリアンプに変更が反映されます。
- ・いずれかのゲインコントロールを調整すると、両方のプリアンプのゲインレベルが変更され、各ゲイン Halo に表示されます。
- ・48V は両方のプリアンプで無効になります。

プリアンプのリンクを解除

プリアンプのリンクを解除するには

1. Select ボタン (1 ~ 8) を押して、ペアのうち一方のプリアンプを選択します。

2. Link ボタンを押すと、プリアンプのリンクが解除されます。

Focusrite Control 2 でプリアンプをリンクする (近日搭載予定)

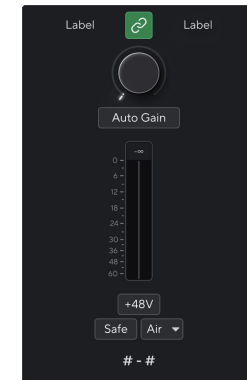
プリアンプをリンク

Focusrite Control 2 でプリアンプをリンクするには、チャンネル・ストリップ上部のアイコン

2つのプリアンプをリンクすると、リンク・アイコンが緑色



リンクされていない2つのプリアンプ。



チャンネルがリンクされ、各コントロールが統合された様子。

プリアンプのリンクを解除

Focusrite Control 2 でプリアンプのリンクを解除し、個別のコントロールに復帰させるには、チャンネル・ストリップ上部の緑色のリンク・アイコン

2つのプリアンプのリンクを解除すると、リンクアイコンは黒/白に戻ります

プリアンプのリンクを解除すると：

- ・リンクされていた最初のプリアンプが選択され、緑色に点灯します。
- ・ゲインレベルとプリアンプ設定は同じ設定となり、以後は個別に変更できます。

48V ボタン (ファンタム電源)

48V (別名ファンタム電源) は、電源を必要とする接続機器に 48V の電圧をインターフェースの XLR コネクタから供給します。主な用途はコンデンサー・マイクですが、48V を必要とするインライン・マイク・プリアンプやアクティブ・ダイナミック・マイク、アクティブ DI ボックスなどにも使用できます。

48V を有効にするには：

1. 電源を供給したいマイクやその他の機器を、XLR ケーブルでインターフェースの XLR 入力に接続します。48V は 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力には供給されません。
2. 目的の入力チャンネルを選択します。
3. 48V ボタン (またはソフトウェアの「+48V」ボタン) を押します。

48V アイコンが緑色に点灯し、48V ファンタム電源が有効になったことを示します。

これで、選択した XLR 入力および接続先の機器に 48V ファンタム電源が供給されます。

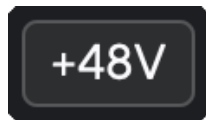


注記

入力 1 または 2 で 48V を有効にし、6.35mm (1/4 インチ) ジャックをフロントパネルのライン・レベルまたは楽器入力に接続すると、対応するマイク入力の 48V が自動的に無効になります。

48V (ファンタム電源) をソフトウェアで有効にする

48V (ファンタム電源) を Focusrite Control 2 で有効にするには、+48V ボタンをクリックします。Scarlett 18i20 ハードウェアの 48V ボタンでもファンタム電源を有効にできます。



+48V ファンタム電源オフ



+48V ファンタム電源オン



重要

大半のダイナミック・マイクやリボン・マイクでは、48V ファンタム電源を誤って供給しても問題が生じることはありません。ただし一部の旧型マイクの場合、ファンタム電源を供給することで悪影響を及ぼす可能性があります。お使いのマイクにファンタム電源が必要かどうか不明な場合は、マイクの取扱説明書を確認し、48V ファンタム電源で安全に使用できることをご確認ください。

Inst (インストゥルメント) ボタンおよびライン入力

Inst ボタンを使用すると、Scarlett の 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力のインピーダンスおよび入力レベルがライン・レベル入力からインストゥルメント・レベル入力に最適な設定に変更されます。各モードでの入力インピーダンスの値は、仕様の章で確認できます。Inst ボタンをオンにせずにエレキ・ギターを接続すると音が籠もりレベルが小さくなりますが、Inst ボタンをオンにすると適切なサウンドに改善されます。[62] [62]

Inst (インストゥルメント) ボタンは、選択チャンネルの 6.35mm (1/4 インチ) ライン入力にのみ有効となります。この機能を有効にすると、ライン・レベル機器に適した入力から、インストゥルメント・レベル機器に適した入力に切り替わります。

Inst ボタンを押すと、6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力のインストゥルメント・モードの有効/無効が交互に切り替わります。Inst を有効にすると Inst 表示が緑色に、無効にすると白色に点灯します。Inst を有効にして入力ジャックにケーブルを接続すると、入力ゲインの最小値が +7dB に変更されます。



注記

Inst 表示が白く点灯している場合は、6.35mm ジャック入力はライン・レベルに最適化されていることを示します。

Inst を有効 (緑色に点灯) にすると、1/4 インチ入力にはインストゥルメント・レベル機器を接続できます。以下は接続可能な機器の一例です。

- エレクトリックギターおよびエレクトリックアコースティックギター (直接またはエフェクトペダル経由で接続)
- エレクトリックベース
- ピックアップを備えるアコースティック楽器 (バイオリンやコントラバスなど)

Inst を無効 (白色に点灯) にすると、6.35mm (1/4 インチ) 入力にライン・レベル機器を接続できます。以下は接続可能な機器の一例です。

- シンセサイザー
- キーボード
- ドラムマシン
- 外部マイクプリアンプ



注記

XLR および 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力 1/2 は、Scarlett 18i20 のリア・パネルの対応するマイク/ライン入力よりも優先されます。

リア・パネルの入力 1/2 からの入力信号が検出されない場合は、フロント・パネルの入力 1/2 にケーブルが接続されていないかをご確認ください。

入力 1 または 2 で 48V を有効にし、6.35mm (1/4 インチ) ジャックをフロントパネルのライン・レベルまたは楽器入力に接続すると、対応するマイク入力の 48V が自動的に無効になります。

インストゥルメント/ライン入力をソフトウェアで切り替える

Focusrite Control 2 でインストゥルメント入力およびライン入力を切り替えるには、**Inst** ボタンをクリックします。



ライン



インストゥルメント



注記

Inst とラインを切り替える際、ゲイン値は最後に設定されていた値に変更されません。

Inst とラインを切り替える際、ゲイン値は最後に設定されていた値に変更されます。

オートゲインを開始し、Scarlett 18i20 へ信号を 10 秒間入力（マイクに向かって話す、または楽器を演奏）すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲインノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

オートゲインを使用するには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. 本体の **Auto** ボタン、またはソフトウェアの **Auto Gain** ボタンを押します。**Auto** アイコンが 10 秒間緑色に点灯します。
3. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す（または歌う）か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する（歌う）ことで、適切なレベルを設定できます。

カウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

オートゲインの処理が失敗すると、ゲイン Halo は赤く点灯します。詳細は、「[ゲイン Halo が赤く点灯した場合](#)」をご参照ください。[18] [18]



注記

Scarlett のオートゲイン機能では、入力信号レベルの他に以下の要素も考慮に入れてレベルが設定されます。

- ・プリアンプのノイズフロア
- ・デジタルサイレンス
- ・チャンネル間クロストーク
- ・意図しない振動や接触などによるノイズ

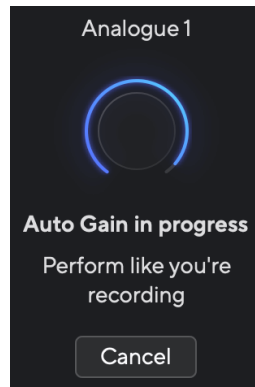
オートゲインをソフトウェアから実行する

Focusrite Control 2 でオートゲインを使用するには：

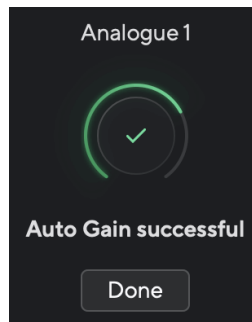
1. Focusrite Control 2 の Auto Gain ボタンをクリックします。



2. オートゲインのカウントダウンが終了するまでマイクに向かって話す（または歌う）か、楽器を演奏します。このとき本番のレコーディングと同じ音量で演奏する（歌う）ことで、適切なレベルを設定できます。
オートゲイン処理が開始され、ソフトウェア上のゲイン Halo がカウントダウンを始めます。



カウントダウンが完了すると、ゲイン Halo が 1 秒間緑色に点灯した後、設定されたゲイン値が表示されます。以上でレコーディングに適切なレベルのゲイン設定が完了となります。

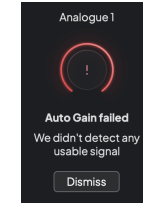


オートゲインの処理が失敗し、ゲイン Halo は赤く点灯した場合

入力信号がオートゲインに不適切（信号が入力されない等）だった場合は、10 秒後にオートゲイン処理が停止し、ゲイン Halo が 1 秒間赤く点灯します。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。



本体のゲイン Halo



Focusrite Control 2 オートゲイン失敗

オートゲインを再び開始する前に、入力機器が適切に接続されていること、オートゲイン実行中に入力信号が出力されていることをご確認ください。またコンデンサーマイクを使用する場合は、48V が有効となっていることをご確認ください。



注記

オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

マルチチャンネル・オートゲイン

オートゲインを開始し、Scarlett 18i20 へ信号を 10 秒間入力 (マイクに向かって話す、または楽器を演奏) すると、プリアンプの入力ゲインが最適なレベルに自動的に設定されます。オートゲイン設定後、ゲインノブを用いてゲイン値を手動で微調整することもできます。

オートゲインは Scarlett 18i20 のすべてのチャンネルで使用できます。

マルチチャンネル・オートゲインを使用するには

1. **Auto ボタンを 1 秒間長押しします。**
マルチチャンネル・オートゲイン・モード時は、すべての **Select ボタンが緑色に点滅します。**
2. オートゲインを有効にしたいチャンネルの **Select ボタンを押します。**
3. 演奏の準備ができれば、**Auto ボタンを再度押すと、選択したチャンネルでオートゲイン処理が実行されます。**



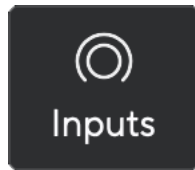
注記

オートゲイン実行中に Auto Gain ボタンを再度押すと、いつでも処理を中止できます。この場合、ゲイン値はオートゲイン開始前の値に復帰します。

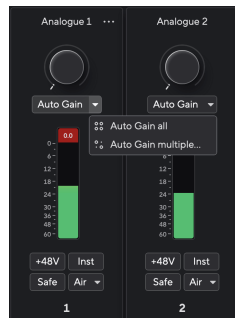
Focusrite Control 2 でマルチチャンネル・オートゲインを実行する

マルチチャンネル・オートゲインは、Focusrite Control 2 から実行できます。手順は以下の通りです。

1. Focusrite Control 2 を開き、インプット・タブを開きます。

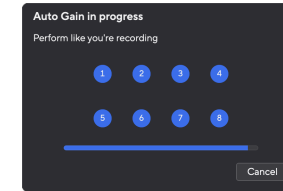


2. Auto Gain ボタンの右にある矢印アイコンをクリックしてドロップダウン・メニューを開きます。



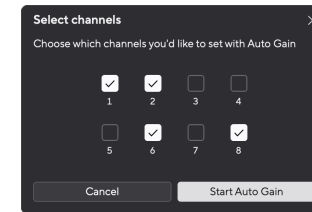
3. 「

- 「Auto Gain all



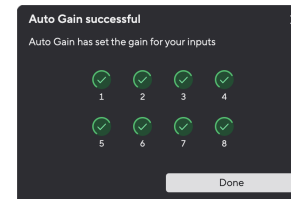
- 「Auto Gain multiple...」は、任意のチャンネルでオートゲイン機能を実行できます。

4. 「Auto Gain multiple...」を選択した後、オートゲインを実行したいチャンネルのチェックボックスを有効にします。

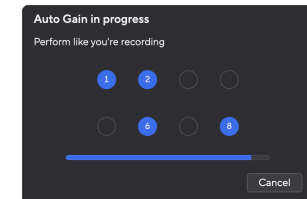


5. Start Auto Gain をクリックすると、選択したチャンネルでオートゲインが実行されます。

オートゲイン処理が完了すると、実行したチャンネルと新たに変更されたゲイン・レベルが Focusrite Control 2 に表示されます。



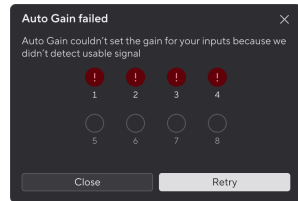
すべてのチャンネルにオートゲインを実行



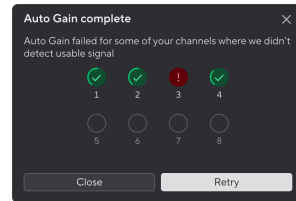
任意のチャンネルにオートゲインを実行

マルチチャンネル・オートゲインのエラー表示

マルチチャンネル・オートゲインの処理は、対象チャンネルまたはすべてのチャンネルの処理中に失敗する可能性があります。失敗した場合、次の2つのメッセージのいずれかが表示されます。



すべてのチャンネルでオートゲインが失敗すると、オートゲインが失敗した旨のメッセージが表示されます。



オートゲインを実行したチャンネルのうち、一部のチャンネルで処理が失敗した場合は、オートゲイン完了のメッセージが表示されます。このとき Retry ボタンを押すことで、すべてのチャンネルに対してオートゲイン処理を再試行することができます。

その場合は、以下のいずれかの方法で解決できます。

- Retry をクリックして選択した **すべてのチャンネルに対してオートゲインを再実行** します。この場合は、**オートゲインが成功したチャンネルにも再度処理が実行** されます。
- Close をクリックし、失敗したチャンネルに対してオートゲインを改めて実行 します。
- Close をクリックし、オートゲインが失敗したチャンネルのゲインを手動で調整 します。

クリップセーフボタン

Safe ボタンを押すとクリップセーフ機能が有効になり、入力信号のクリッピングが生じる恐れのある場合に、**プリアンプの入力ゲインが自動的に調整** されます。

クリッピングは、プリアンプのオーバーロードにより発生する現象で、入力信号に対してゲイン設定が高すぎると発生しやすくなります。プリアンプの歪みであるクリッピングは不快なサウンドになることが多く、録音テイクを台無しにする可能性があります。クリップセーフはこれを回避するのに役立つ機能であり、入力信号レベルが高くなりクリッピングの恐れが生じると、プリアンプのゲインが自動的に制御されます。そのため、クリップセーフを使うことでテイクの録り直しを防ぐことができます。



注記

クリップセーフ機能は、96kHz までのサンプルレートでのみ使用できます。クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。この場合には Safe LED が赤く点灯し、使用できないことを示します。

クリップセーフを有効にするには：

1. **Select** ボタンでオートゲインを設定したいプリアンプを選択します。
2. **Safe** ボタンを押すか、ソフトウェアの **Safe** ボタンをクリックします。

クリップセーフを有効にすると、**Safe アイコンが緑色に点灯** します。クリップセーフ・アイコンは、**クリップセーフ・モードが無効かつ使用可能である場合に、白く点灯** します。

プリアンプのリンク機能を使用して2つの入力を選択中は、**Safe がいずれのプリアンプにも適用** されます。



ヒント

クリップセーフを有効にすると、Scarlett が入力信号を毎秒最大 96000 回のペースで監視します。アナログプリアンプのコントロールと DSP を併用することで、クリッピングのリスクが大幅に抑えられます。

Focusrite Control 2 でクリップセーフを使用する

Focusrite Control 2 でクリップセーフ機能を有効にするには、**Safe** ボタンをクリックします。



クリップセーフオフ



クリップセーフオン

Air モード

Air モードを有効にすると、Scarlett のプリアンプを異なるキャラクターを持つ 2 つのモードで使用できます (Air Presence、Air Presence & Harmonic Drive)。

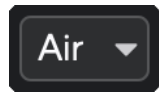
Air モードは、マイク、ライン、インストゥルメント入りに適用されます。

Air モードを有効にするには目的の入力を選択し、Air ボタンを押します。ボタンを 1 回押すと Air Presence モード、2 回押すと Air Presence & Harmonic Drive モードとなり、再度ボタンを押すと Air モードが無効になります。選択中もモードに応じて Air LED の色が変わります。

モード	説明	AIR LED	メモ
Off	クリーンなプリアンプ	白	
Air Presence	アナログ回路によりソース信号のプレゼンスが強調されます。	緑	
Air Presence & Harmonic Drive	アナログ Air 回路に加え、ソース信号に倍音成分が付与されます。	橙	96kHz までのサンプルレートでのみ使用可能です。

Air モードをソフトウェアから使用する

Air モードを Focusrite Control 2 で有効にするには、Air ボタンをクリックします。Scarlett 18i20 本体の Air ボタンで Air モードを有効にする操作と同様です。



Air モードオフ

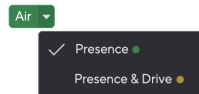


Air Presence が選択中

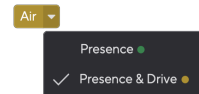


Air Presence & Drive が選択中

Focusrite Control 2 の Air ボタンをクリックすると、前回選択されていた Air モードが有効になります。Air モードを変更するには、矢印アイコンをクリックして表示されるポップアップメニューから目的のモード (Presence または Presence & Drive) を選択します。



Air Presence が選択中



Air Presence & Drive が選択中



注記

Air Presence & Drive モードは、96kHz までのサンプルレートでのみ使用できます。クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。

スピーカー切り替え (Alt)

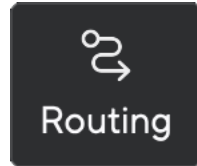
Scarlett 18i20 の Alt ボタンを使用すると、2つのスピーカー出力を切り替えることができます。モニター・スピーカーを切り替えてミックスを確認できる便利な機能です。

スピーカー切り替えは、以下の手順で設定します。

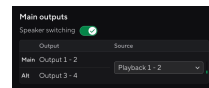
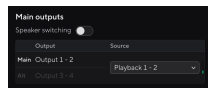
1. メイン・スピーカーをモニター出力 1-2 に接続します。
2. 2セット目のモニターをモニター出力 3-4 に接続します。



3. Focusrite Control 2 のルーティング・タブを開きます。



4. 出力リスト上部の **Speaker switching** トグル・ボタンをクリックして有効にします。



5. **Source** にて出力ソースを選択します。
ミックスの確認をしている場合は、DAW からの出力がソースとなるため、Playback 1-2 を選択します。

各モニターが接続された状態でフロント・パネルまたは Focusrite Control 2 の Alt ボタンを押すと、メイン・モニター (Outputs 1-2) と 2 番目のモニター (Output 3-4) の間で出力を切り替えることができます。



Alt を有効にすると、ソースの出力が Main から Alt に切り替わり、Alt が緑色に点灯します。



注記

スピーカー切り替えを有効にすると、Outputs セクションには Main スピーカーと Alt スピーカー用の 2 種類のボリューム設定が表示され、それぞれ独立したボリューム設定が可能になります。

Main と Alt を切り替えると、その出力の最後のレベル設定に切り替わります。Outputs にてスピーカー毎に出力レベルを調整することで、各出力のレベルをマッチさせることができます。

スピーカー切り替えを一度無効にしてから有効にする、または Focusrite Control 2 を再起動すると、Alt 出力のレベルは -48dBFS にリセットされます。

Dim ボタン

Dim ボタンを押すと Dim が緑色に点灯し、出力信号が 18dB 減衰します。



Dim オフ (白)



Dim オン (緑)

Dim ボタンを使うと、再生を止めずに会話をしたり、アイデアを試したりすることができます。

デフォルトでは、Dim は Main モニター出力 1 および 2 に反映されます。Focusrite Control 2 にて Alt 出力にも Dim を反映させるように設定可能です。

ソフトウェアによる Dim のコントロール

Focusrite Control 2 から Dim をコントロールするには、右側の Outputs セクションにある Dim ボタンをクリックします。[23] [23]

Dim ボタンは Scarlett 18i20 のフロント・パネルの Dim ボタンと同様に機能し、出力レベルを 18dB 減衰させます。Dim を有効にすると、Dim ボタンが緑色に点灯します。



Dim オフ



Dim オン

Output ボタン

Output ボタンを押すと、入力信号レベルを示すメーター 1~8 の表示が各出力レベルの表示に切り替わります。L および R メーターと同様に、Output ノブが適用される前の信号レベルを表示します (プリフェーダー)。

有効にすると、Output ボタンが緑色に点灯します。

Output ボタンを有効にすると、メーター表示がアナログ入力 1~8 の入力レベルから、アナログ出力 1~8 の出力レベルに切り替わります。



Output オフ (白)、入力メーター表示。



Output オン (緑)、出力メーター表示。



ヒント

異なる出力に信号を割り当てるには、Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する [54]をご参照ください。

ミュートボタン

Mute ボタンを押すと、Mute が緑色に点灯し、出力信号がミュートされます。



Mute オフ (白)



Mute オン (緑)

ミュート機能はデフォルトで出力 1-2 に適用されます。Focusrite Control 2 で設定することで、Alt 出力をミュートさせることも可能です。

ソフトウェアによるミュートのコントロール

Focusrite Control 2 で Mute をオン/オフにするには、Outputs セクション右側の Mute ボタンをクリックします。[23] [23]

Mute ボタンは Scarlett 18i20 のフロント・パネルの Mute ボタンと同様に機能します。有効にすると、Mute ボタンが緑色に点灯します。



Mute オフ

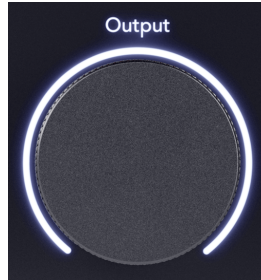


Mute オン

出力コントロールおよびレベルメーター

Output ノブと出力レベル・メーター (L/R)は、Scarlett 18i20 のリア・パネル出力(Outputs) から出力される信号の調整/確認を行います。L/R レベル・メーターは、選択中のモニター出力 (1-2 または Alt 有効時 3-4) の信号レベルを表示します。

Scarlett 18i20 の Output ノブの周囲は白く点灯し、Output ノブの現在の値を示します。



出力レベル・メーター L および R はプリフェーダーで動作し (Output ノブによるレベル調整は適用されません)、コンピュータから Outputs 1 および 2 に送信される信号レベルを表示します。



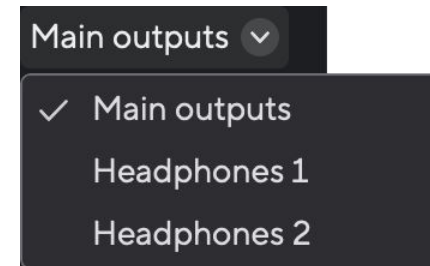
Focusrite Control 2 Output セクション

Focusrite Control 2 画面の右側にある Output セクションでは、本体の Output ノブとレベル・メーターが視覚的に表示されています。

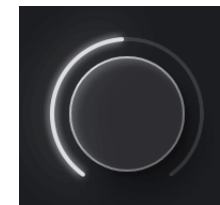


Output ノブの選択

Outputs セクションの上部にあるドロップダウン・メニューにて、ノブでレベルを変更する出力を選択できます。



Output ノブ

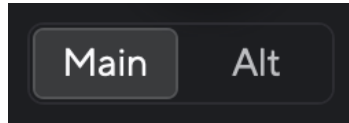


Focusrite Control 2 のノブは、Scarlett 18i20 本体のフロント・パネルにある Output ノブをソフトウェア内に表示したものです。本体のノブを変更すると Focusrite Control 2 ソフトウェアのノブも連動して変化します。

スピーカー切り替え (Alt) のソフトウェア・コントロール

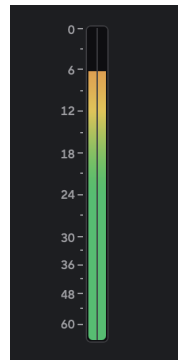
Output セクションでは、Alt (スピーカー切り替え) 機能を利用できます。Main または Alt をクリックすることで、本体の Main および Alt 出力に接続されたモニターを切り替えることができます。

詳細は、[スピーカー切り替え \(Alt \) \[22\]](#)をご参照ください。



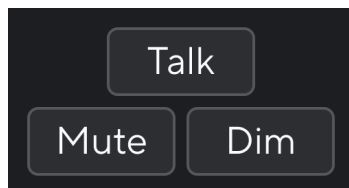
出力レベル・メーター

出力レベル・メーターはフロント・パネルのメーター表示が反映され、プリフェーダーで動作します。従ってこのメーターは Output ノブの影響を受けず、コンピューターから Outputs 1 および 2 (Alt 有効時は Outputs 3 および 4) に送られる信号レベルを表示します。




Mute、Dim、Talk

Mute、Dim、Talk の章をご参照ください。[31] [31] [23] [23] [23] [23]



Scarlett で ADAT と S/PDIF を使用方法と同期ステータス

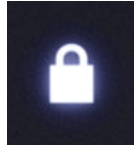
Scarlett 18i20 がクロック・ソースにロックまたは同期すると、フロント・パネルの同期ステータス・アイコン 

同期ステータス・インジケータは、Scarlett 18i20 のデジタル入出力 (ADAT または S/PDIF IO) に接続されている外部機器でチャンネル数を拡張する際に活用できます。



重要

オーディオ信号を適切に伝送するには、同期ステータス・インジケータを緑色に点灯させる必要があります。そのためには、Scarlett 18i20 をクロック・マスター (内部クロック) に設定するか、もしくはスレーブ (ADAT または S/PDIF のクロックに追従) に設定し、適切なクロック・マスター機器を接続する必要があります。



デジタル入力を使用する場合は、Scarlett 18i20 と接続中のオーディオ機器がお互いに同期された内部クロックで動作する必要があります。これにより、各機器のオーディオ信号を正確なタイミングで録音することができます。

接続するデジタル機器の種類 (ADAT、コアキシャル S/PDIF、またはオプティカル S/PDIF) に応じてデジタル IO モードが正しく設定されていることを確認する必要があります。詳細は、[デジタル入出力モードの設定 - 近日公開 \[57\]](#)をご参照ください。



ヒント

接続したデジタル・オーディオ機器が正しく同期されていないと、グリッチ・ノイズが生じたり、音声信号が完全に途切れる場合があります。

- デジタル入出力を搭載するすべての機器は内部クロックを備えており、クロック・リーダーまたはクロック・フォロワーのいずれかとして動作する必要があります。



ヒント

これらのセットアップ例では、ADAT や S/PDIF でデジタル・チャンネルを拡張する例として Focusrite 製品を使用していますが、ADAT および S/PDIF は一般的な規格です。そのため、ADAT または S/PDIF 出力を備えるあらゆる機器を Scarlett のデジタル入力に接続し、チャンネルを拡張することができます。

デジタル・オーディオ機器の同期には、いくつかの原則があります。

- クロック信号はオーディオ信号に埋め込むことができ、同じケーブル (S/PDIF、ADAT など) で伝送できます。
- クロック信号は常に単方向で伝送されます。1 本の ADAT または S/PDIF ケーブルで双方向 (入出力) の伝送は行えません。
- クロック同期には、リーダー (マスター) とフォロアー (スレーブ) が存在します。デジタル機器は、クロック信号を「フォロアー」することで適切に動作します。セットアップの中で必ず 1 台の機器がクロック・リーダー (マスター) となる必要があります。その他の機器はフォロアー (スレーブ) となりクロック・リーダーからのクロック信号を受信します。

セットアップ 1 : Scarlett 18i20 がクロック・フォロアーの場合



最もシンプルなセットアップです。1 台の機器を接続することで Scarlett 18i20 のチャンネル数を拡張できます。

上記は ADAT 機器を接続する場合の手順ですが、S/PDIF 機器の場合も同様です。使用している S/PDIF タイプ (コアキシャルまたはオプティカル) に応じて、デジタル IO モード設定を変更する必要がある場合があります。詳細は、[デジタル入出力モードの設定 - 近日公開 \[57\]](#)をご参照ください。

機材:

- 外部 ADAT 機器 - Clarett+ OctoPre など。
- 1 本の TOSLINK ケーブル (ADAT ケーブルとも呼ばれます)。

セットアップ:

1. ADAT プリアンプの ADAT 出力ポートと Scarlett 18i20 の ADAT 入力ポートを **TOSLINK ケーブルで接続します。**
2. ADAT プリアンプの設定で、クロックを内部クロックに、サンプルレートを任意に設定します。
3. Focusrite Control 2 で Scarlett 18i20 のクロックを ADAT に、サンプルレートを ADAT プリアンプと同じ値に設定します。
4. お使いの DAW の入力チャンネルで入力 13-20 を選択します。これは ADAT 入力に相当します。



注記

Scarlett 18i20 は 2 つの ADAT 入力ポートを備えます。ADAT ではサンプルレートを高くすると (44.1kHz から 88.2kHz など)、1 本のケーブルで伝送できるチャンネル数が半減します。つまり Scarlett 18i20 は 88.2 または 96kHz の場合、2 本のケーブルで合計 8 チャンネルのオーディオ信号を伝送します。

2 本の ADAT ケーブルを使用してデュアルバンド・サンプルレートで 8 チャンネルを伝送するには、[の設定にて、ADAT モードをデュアル Focusrite Control 2 にします。](#)詳細は、[デジタル入出力モードの設定 - 近日公開 \[57\]](#)をご参照ください。

セットアップ 2 : Scarlett 18i20 がクロック・フォロアーの場合



より多くのケーブルが必要となること以外は、セットアップ 1 の例と似た構成です。チャンネル数を頻繁に拡張しないのであれば、このセットアップの様に Scarlett 18i20 をクロック・リーダーとして使用すると良いでしょう。

上記は ADAT 機器を接続する場合の手順ですが、S/PDIF 機器の場合も同様です。使用している S/PDIF タイプ (コアキシャルまたはオプティカル) に応じて、デジタル IO モード設定を変更する必要がある場合があります。詳細は、[デジタル入出力モードの設定 - 近日公開 \[57\]](#)をご参照ください。

機材:

- 外部 ADAT 機器 - Clarett+ OctoPre など。
- 2 本の TOSLINK ケーブル (ADAT ケーブルとも呼ばれます)。

セットアップ:

1. ADAT プリアンプの ADAT 出力ポートと Scarlett 18i20 の ADAT 入力ポートを TOSLINK ケーブルで接続します。
2. 2 本目の TOSLINK ケーブルを、Scarlett 18i20 の ADAT 出力 Out から ADAT プリアンプの ADAT 入力 In に接続します。
このケーブルはクロック信号の出力のみに使用されますが、お使いの ADAT プリアンプがアナログ出力を備える場合は、コンピューターから送信した信号を Scarlett の ADAT 出力経由で ADAT プリアンプからアナログ出力する用途としても使用可能です。

3. ADAT プリアンプのクロックを ADAT に、サンプルレートを任意の値に設定します。
4. Focusrite Control 2 で Scarlett 18i20 のクロックを「Internal」に、サンプルレートを ADAT プリアンプと同じ値に設定します。
5. お使いの DAW の入力チャンネルで入力 13-20 を選択します。これは ADAT 入力に相当します。

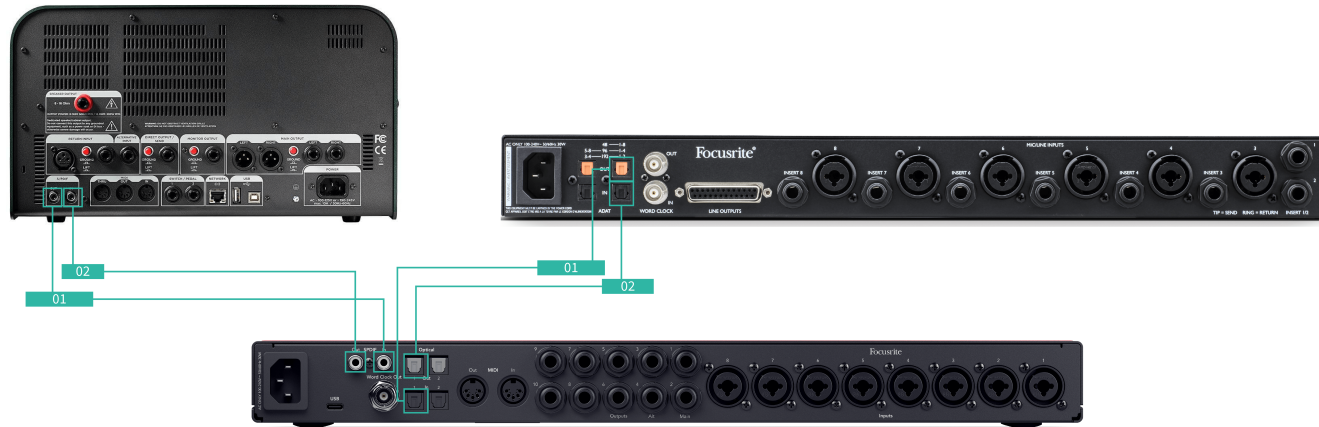


注記

Scarlett 18i20 は 2 つの ADAT 入力ポートを備えます。ADAT ではサンプルレートを高くすると (44.1kHz から 88.2kHz など)、1 本のケーブルで伝送できるチャンネル数が半減します。つまり Scarlett 18i20 は 88.2 または 96kHz の場合、2 本のケーブルで合計 8 チャンネルのオーディオ信号を伝送します。

2 本の ADAT ケーブルを使用してデュアルバンド・サンプルレートで 8 チャンネルを伝送するには、[の設定にて、ADAT モードをデュアル Focusrite Control 2 にします。詳細は、デジタル入出力モードの設定 - 近日公開 \[57\]](#)をご参照ください。

セットアップ 3 : 複数の拡張機器を使用する場合



このセットアップでは、ADAT 機器と S/PDIF 機器の 2 台を使用してチャンネル数を拡張しています。ADAT 機器には、OctoPre やマイク・プリアンプなどを使用できます。S/PDIF 機器には、スタンドアロン・モードで起動した別のインターフェースやギターアンプ・シミュレーターを使用できます。

外部機器でのチャンネル拡張を通常は行わない場合は、Scarlett 18i20 をクロック・リーダーとして運用することをお勧めします。これにより、必要な場合にのみ外部機器を起動すれば良くなり、効率的です。

機材:

- 外部 ADAT プリアンプ - Clarett+ OctoPre など。
- S/PDIF 機器 - ギター・アンプなど
- 2 本の ADAT ケーブル
- 2 本の S/PDIF ケーブル

セットアップ:

1. ADAT プリアンプの ADAT 出力ポートと Scarlett 18i20 の ADAT 入力ポートを **TOSLINK ケーブルで接続します。**
S/PDIF 機器の S/PDIF 出力と Scarlett 18i20 の S/PDIF 入力を S/PDIF ケーブルで接続します。

2. 2 本目の TOSLINK ケーブルを、Scarlett 18i20 の ADAT 出力 **Out** から **ADAT プリアンプの ADAT 入力 In** に接続します。
Scarlett 18i20 の S/PDIF 出力から S/PDIF 機器の S/PDIF 入口に 2 本目の S/PDIF ケーブルを接続します。
3. S/PDIF プリアンプのクロック・ソースを S/PDIF に設定し、サンプルレートを任意の値に設定します。S/PDIF 機器でこれらの設定が行えない場合は、...をご参照ください。
4. Scarlett 18i20 のクロック・ソースを内部クロックに設定し、サンプルレートを S/PDIF 機器と同じ値に設定します。
5. ADAT プリアンプのクロック・ソースを ADAT に設定し、サンプルレートを Scarlett 18i20 と同じ値に設定します (ADAT プリアンプは、2 本目の ADAT ケーブルでクロックを受信します)。



注記

デュアルバンドのサンプルレート (88.2kHz および 96kHz) では、利用できるチャンネル構成が以下に制限されます (2 系統の ADAT ポートを使用)。

- 2 つのコアキシャル S/PDIF チャンネルおよび 4 つの ADAT チャンネル
- 2 つのオプティカル S/PDIF チャンネルおよび 4 つの ADAT チャンネル
- 8 つの ADAT チャンネル

いずれののサンプル・レートにおいても、コアキシャル S/PDIF ポートと ADAT ポートを同時に使用することは **できません**。入力チャンネルの組み合わせに関する詳細は、[Scarlett 18i20 各入力チャンネル \[64\]](#)をご参照ください。

トークバック・ボタン

Talk ボタンを押すと、トークバック機能が有効になります。Talk が緑色に点灯し、トークバック・マイク信号が選択した出力に送信されます。デフォルトでは、トークバックは2つのヘッドフォン出力にルーティングされています。

Talk を有効にすると、ミックス内のその他の出力レベルが 25dB 減衰されます。これにより、演奏者に対するトークバック・マイクの音声が聞き取りやすくなります。

Focusrite Control 2Talk<0/>を有効にすると、ミックス内のその他の出力レベルが 25dB 減衰されます。これにより、演奏者に対するトークバック・マイクの音声が聞き取りやすくなります。

デフォルトでは、Talk ボタンは「モーメンタリ」で動作し、ボタンを押している間のみトークバックが有効になります。Focusrite Control 2 で設定することで、Talk ボタンの動作をモーメンタリからラッチに切り替えることもできます。

ソフトウェアからトークバックを使用する

ソフトウェアのトークバック・ボタンは、モーメンタリまたはラッチのいずれでも動作します。

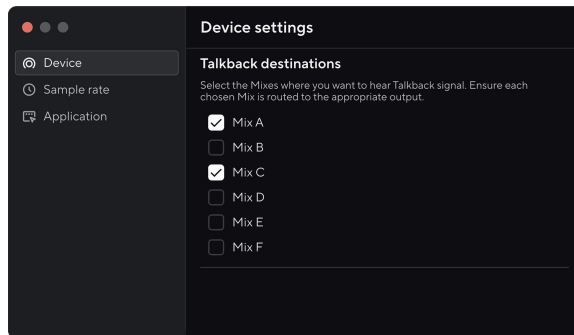
Talk ボタンをクリックしたまま押し続けるとトークバックはモーメンタリとして動作し、Talk ボタンをクリックするとトークバックがラッチされます。

トークバック入力のルーティング

Focusrite Control 2 を使用すると、トークバック・マイクの信号を送信するミックスを選択することができます。

トークバック・マイク信号を送信するミックスを変更するには：

1. 右上にあるリーダー・アイコン 
2. デバイス・タブを開きます。
3. トークバック信号を送信したいミックスのチェックボックスをクリックします。



ヘッドフォン出力

Scarlett 18i20 は、2 つのヘッドフォン出力を備えます。いずれの出力も他のアナログ出力と完全に独立しており、個別のミックスをそれぞれ出力可能です。

ヘッドフォン出力部は 6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャック用です。多くのヘッドフォン端子に採用されている 3.5mm TRS ジャックを Scarlett 18i20 に接続するには、TRS 6.35mm - 3.5mm 変換アダプターを使用してください。

ヘッドフォン出力レベルは、ヘッドフォン出力コネクタ上部のノブで調整できます。



ヘッドフォン出力ノブの周囲には、ハロメーターが搭載されています。時計回りに緑色～オレンジ色に点灯し、ヘッドフォン出力レベルを表示します。メーターはプリフェーダーで表示されるため、ヘッドフォン出力ノブはハロメーターに反映されません。

ヘッドフォン・レベルは、ヘッドフォン出力ノブまたは Focusrite Control 2 で変更できません。



注記

一部のヘッドフォンおよび変換アダプターの中には、TR または TRRS コネクタを備えているものがあります (マイクやボリューム・コントロールがケーブルに組み込まれている製品など)。これらのヘッドフォンは Scarlett で正常に使用できない可能性があるため、問題が発生した場合は TRS 仕様のヘッドフォンおよび変換アダプターを使用してください。

ヘッドホン出力のルーティング

ヘッドフォン出力には、任意のソースを割り当てることができます。ハードウェア入力 (ダイレクト・モニタリング) とソフトウェア・プレイバックで構成されたミックスを割り当てることも、Software Playback1-2 などのソースを直接ヘッドフォンに出力することも可能です。

ヘッドフォンのルーティングを設定するには :

1. Focusrite Control 2 を起動します。
2. ルーティング・タブを開きます。
3. Output リストから目的のヘッドフォン出力を探します。
4. 対応するソース (Source) のドロップダウンをクリックし、ヘッドフォンに送信したいソースまたはミックスを選択します。

作成したミックスが、選択したヘッドフォン出力に送信されます。Scarlett 本体またはソフトウェアのヘッドフォン・ノブで出力全体のレベルを調整できます。ミックスの構成要素は、Focusrite Control 2 の Mix 機能で調整できます。

リアパネルの各機能

本章では、Scarlett 18i20 のリア・パネルのすべての機能を紹介し、Focusrite Control 2 での操作方法についても解説します。

USB 接続

USB と記載されている USB タイプ C ポートは、Scarlett とコンピュータを接続するために使用します。

付属の USB-C ケーブルでコンピュータの USB-C ポート、または USB-C to A アダプターを使用してコンピュータの USB-A ポートに接続します。

S/PDIF 入出力

S/PDIF ポートは、ギター・アンプやマイク・プリアンプ、その他の S/PDIF 出力対応機器を接続するための 2 チャンネルのデジタル入出力を提供します。



注記

S/PDIF ポートはコアキシャル RCA です。75Ω ケーブルの使用をお勧めしますが、一般的な短めの RCA ケーブルでも動作します。

S/PDIF で外部デジタル機器を接続している場合は、様々な方法で Scarlett 18i20 をクロック同期させることができます。同期と外部デジタル機器のセットアップに関する詳細は、[同期ステータス・インジケータ](#)の章をご参照ください。[26] [26]

Scarlett 18i20 が適切に同期している場合、同期ステータス・インジケータは緑色に点灯します。外部機器からオーディオ信号を Scarlett 18i20 に送信している場合、S/PDIF チャンネル信号が入力チャンネル 11-12 に表示されます。

ワード・クロック出力

Scarlett 18i20 のワード・クロック出力は、ADAT または S/PDIF で接続されている外部機器にクロック信号を送信します。ワード・クロック出力は、クロックを設定できない ADAT または S/PDIF 機器にワード・クロック入力搭載されている場合に使用します。

ワード・クロック出力からはオーディオ信号は出力されません。クロック信号のみを伝送します。

Scarlett 18i20 はワード・クロック出力のみに対応します。ワード・クロック信号の受信はできないため、ワード・クロック接続する場合は、外部機器のワード・クロック入力に接続する必要があります。

オプティカル接続

Scarlett 18i20 のリア・パネルにある Optical コネクタに外部デジタル機器を ADAT 接続すると、Scarlett 18i20 のチャンネル数を拡張することができます。



注記

Scarlett 18i20 をクワッドバンドのサンプルレート (176.4/192 kHz) で使用する場合は、オプティカル入出力は無効になります。

MIDI

リアパネルの MIDI 入出力ポートを使用すると、Scarlett 18i20 を USB MIDI インターフェースとして利用できます。MIDI IN は、キーボードや MIDI コントローラーからの MIDI 信号を受信します。MIDI OUT は、シンセサイザーやドラムマシン、その他の MIDI 対応機器などに対して MIDI 情報を送信します。



重要

ご購入後に初めて電源を投入すると、Scarlett 18i20 はイージースタート・モードで起動します。このモードでは MIDI 機能が無効に設定されています。MIDI 機能を有効にするには、Focusrite Control 2 をインストールして起動する必要があります。

Scarlett 18i20 を USB MIDI インターフェースとして使用するために特別な設定は必要ありません。Scarlett 18i20 の MIDI ポートが MIDI 対応ソフトウェア内に表示され、Scarlett の 5 ピン DIN MIDI ポートを介して MIDI ハードウェアとコンピュータ間の MIDI 送受信が行えます。



注記

Scarlett 18i20 の MIDI Out ポートを MIDI Thru ポートとして使用することは **できません**。

スピーカー出力

Outputs 1 および 2 は、Scarlett 18i20 をアンプやアクティブ・モニターに接続するためのライン・レベル出力です。バランス 1/4 インチ TRS ジャックを備え、アンバランス TS またはバランス TRS ケーブルを使用して、1/4 インチジャック、RCA または XLR 入力を搭載するスピーカーに接続できます。

Scarlett 18i20 のフロントパネルにある **Output ノブ**にて、**Outputs 1 および 2 に送られる信号レベルを調整**できます。



注記

6.35mm TS ジャック、または RCA 変換ケーブルを用いたアンバランス接続も可能です。しかしながら、アンバランス接続は、ノイズの原因となる干渉を受ける場合があるため、Focusrite はこれらの接続を推奨しません。

信号を再生していない状態でクラックルなどのノイズがスピーカーから定期的に聴こえる場合は、スピーカーとの接続がバランス接続であるかをご確認ください。

Main および Alt

Scarlett 18i20 は Main (1 および 2)、Alt (3 および 4) と記載された 2 系統のモニター出力を備えます。

各モニター出力には別々のモニターを接続することができ、Alt ボタンを押すだけで出力先を切り替えることができます。

ライン出力

ライン出力 5-10 は、モニター・ライン出力 1-2 と同じ電気的特性を備えます。

これらの出力から送信される信号は Focusrite Control 2 で設定できます。マルチチャンネル・モニタリング・システムの追加のスピーカー (サブウーファーなど) に送信したり、アウトボード・プロセッサーへの送信などに活用できます。

マイク入力

3 ピン XLR 入力コネクタは、マイク・レベル信号に対応します。

マイク入力レベルは、フロントパネルの対応する入力ゲインノブで調整できます。コンデンサーマイクを使用する場合は、48V ファンタム電源も利用できます。ファンタム電源は、フロントパネルの 48V ボタンで有効にできます。

48V ファンタム電源は、チャンネル毎に有効にできます。

DAW (録音ソフトウェア) のセットアップ

Scarlett は、ASIO (Windows) および Core Audio (macOS) に対応する DAW で使用できます。ASIO 非対応のアプリケーションでも使用できますが、利用可能なチャンネル数が制限される場合があります。

以下では、主要な DAW で Scarlett をセットアップしレコーディングを開始するための手順を紹介します。より詳しい情報は、お使いの DAW のユーザーガイドをご参照ください。

コンピュータに以下で解説する DAW がインストールされていない場合は、Scarlett 付属の Ableton Live Lite および Pro Tools Artist をご利用ください。これらの DAW は [イーजीスタート](#) または [Focusrite アカウント](#) からダウンロード可能です。[5] [5]



ヒント DAW とは？

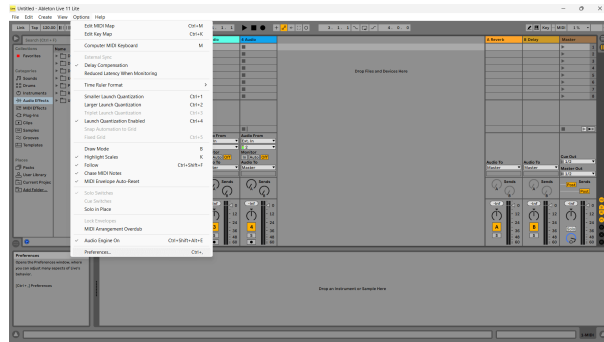
DAW (デジタルオーディオワークステーション) とは、音楽のレコーディング、アレンジ、制作を行うためのソフトウェア全般を指す用語です。



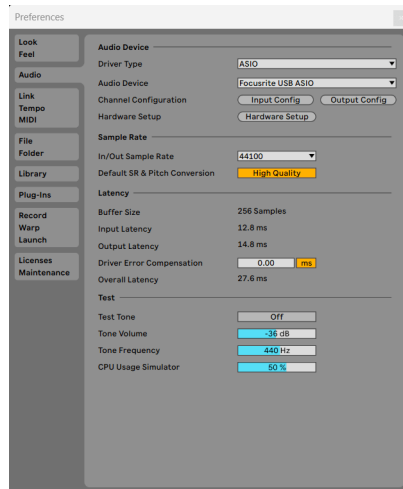
Ableton Live のセットアップ手順は、以下の通りです：

Windows

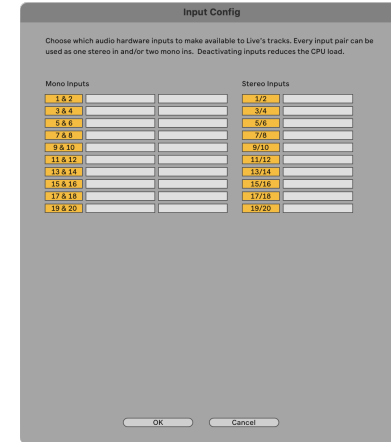
1. コンピュータにインストールされている Ableton Live を起動します。
2. オプション > 環境設定... を選択します。



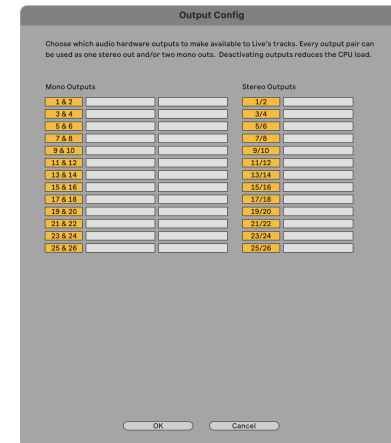
3. 環境設定ウインドウの左側の項目から **Audio** タブを選択します。
4. **ドライバタイプで ASIO を、オーディオデバイスで Focusrite USB ASIO を選択します。**



5. **入力設定** をクリックします。
次の手順では、インターフェースのすべての入力を Ableton Live の入力チャンネルとして表示させるための設定を行います。
6. **モノおよびステレオ入力の各項目をクリックして選択します。ここで選択した項目が、Live の入力チャンネルとして選択可能になります。**



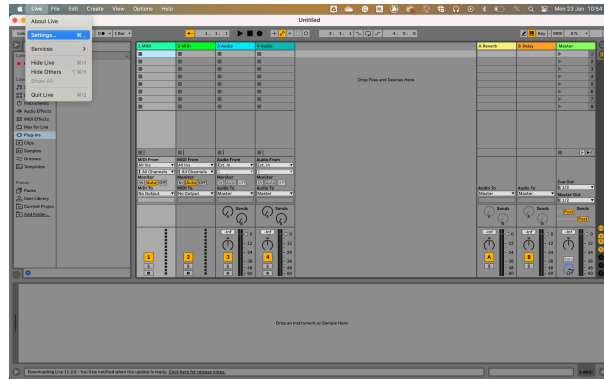
7. **OK** をクリックします。
8. Scarlett 18i20 から複数チャンネルを出力したい場合は、**出力設定** で同様の設定を行います。



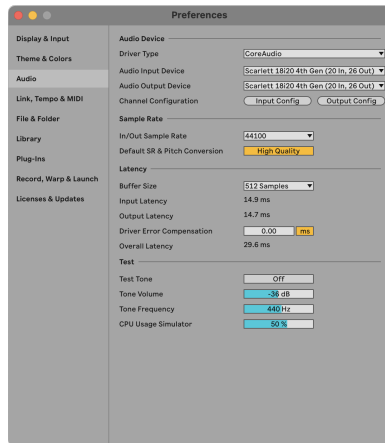
9. 環境設定ウインドウを閉じます。

Mac

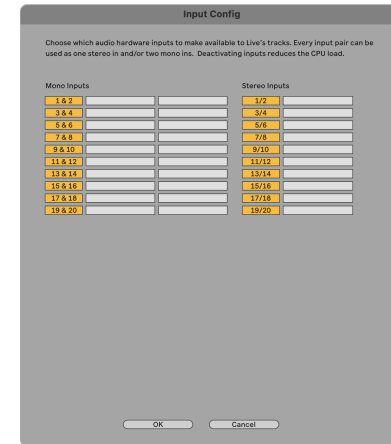
1. コンピュータにインストールされている Ableton Live を起動します。
2. メニューバーの **Live** をクリックします。



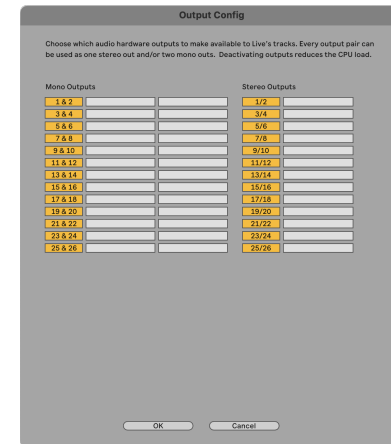
3. **設定...** をクリックします。
4. 環境設定ウィンドウの左側の項目から **Audio タブ** を選択します。
5. **オーディオ入力デバイス および オーディオ出力デバイス** で **Scarlett 18i20 4th Gen** を選択します。



6. **入力設定** をクリックします。
次の手順では、インターフェースのすべての入力を Ableton Live の入力チャンネルとして表示させるための設定を行います。
7. **モノ** および **ステレオ** 入力の各項目をクリックして選択します。ここで選択した項目が、Live の入力チャンネルとして選択可能になります。これにより、最大 20 チャンネルの入力が Live に表示されます。



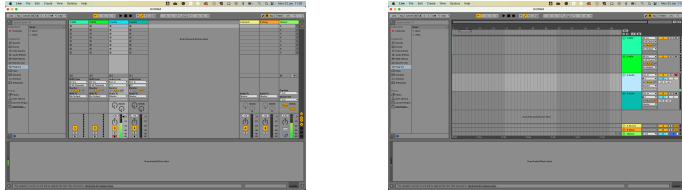
8. **OK** をクリックします。
9. Scarlett 18i20 から複数チャンネルを出力したい場合は、**出力設定** で同様の設定を行います。



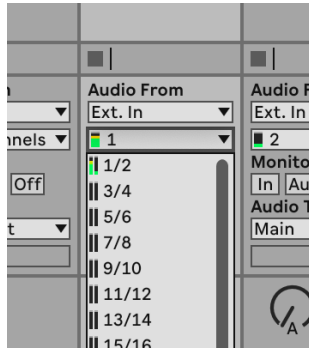
10. 環境設定ウィンドウを閉じます。

Ableton Live で録音する

1. Ableton Live のメインウィンドウで オーディオ・トラックをクリックします。
Live には 2 種類のビュー (セッション・ビューおよびアレンジメント・ビュー) があります。下のスクリーンショットは、各ビューでオーディオ・トラックを選択した様子を示しています。



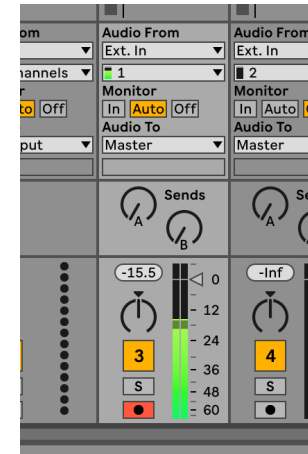
2. Audio From のドロップダウン・メニューから Ext. In を選択し、入力チャンネルをインターフェースで使用する入力 (1 など) に設定します。



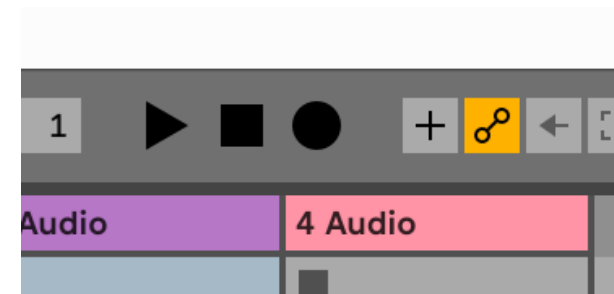
3. Monitor を Auto に設定します。
これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。



4. トラック下部のアームボタンをクリックします。トラックアームが赤く点灯し、アームが有効になったことを示します。
Scarlett へ信号が入力されると、Ableton Live の入力メーターが反応します。



5. 録音の準備ができたなら、トランスポートバーの をクリックします。

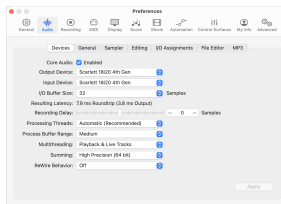




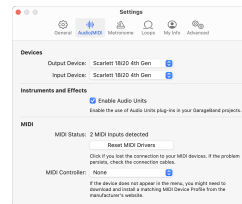
Logic Pro および GarageBand のセットアップ手順は以下の通りです：

詳細な手順

1. コンピュータにインストールされている Logic Pro または GarageBand を起動します。プロジェクトの選択ダイアログが表示された場合は、空のプロジェクトを選択するか、テンプレートを選択します。
2. 選択ウィンドウでトラックのタイプをオーディオに設定します。
3. オーディオ入力を入力 1 に設定します。
入力が表示されない場合は、デバイス：が Scarlett 18i20 に設定されているかを確認します。
 - a. デバイス・セクション右の矢印をクリックします。
 - b. 設定ウィンドウの出力デバイスおよび入力デバイスで Scarlett 18i20 4th Gen を選択します。



Logic Pro X

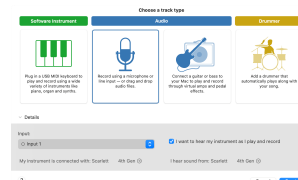


GarageBand

- c. 適用 をクリックします (Logic のみ)
 - d. 環境設定または設定 ウィンドウを閉じます。
4. Logic Pro : 入力モニタリング と 録音を可能にする のチェックボックスを選択します。
GarageBand : 演奏や録音中に自分の音源の音を聴く のチェックボックスを選択します。
これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。
 5. 作成 をクリックします。

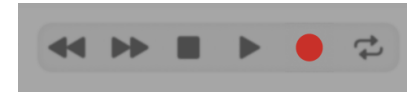


Logic Pro



GarageBand

6. 録音の準備ができたなら、Logic/GarageBand の録音ボタンをクリックします。

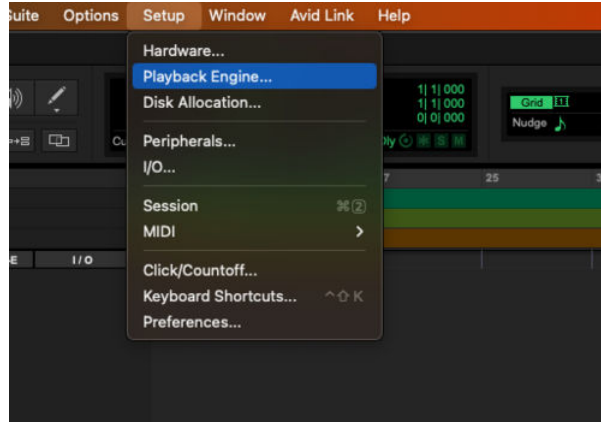




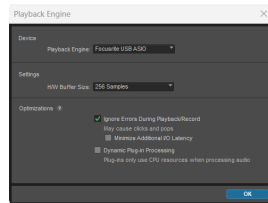
Pro Tools のセットアップ手順は、以下の通りです：

詳細な手順 (Windows および macOS)

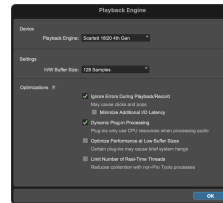
1. コンピュータにインストールされている Pro Tools を起動します。
2. メニューから **設定 > プレイバックエンジン...** を選択します。



3. **プレイバックエンジンのドロップダウン・メニューで Focusrite USB ASIO (Windows) または Scarlett 18i20 4th Gen を選択します。**

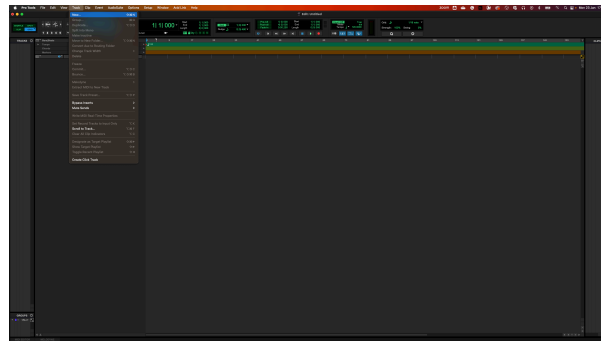


Windows

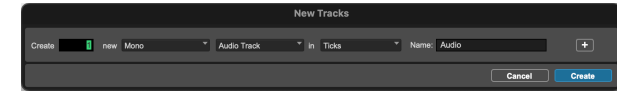


Mac

4. メニューから **トラック > 新規...** を選択します。



5. 必要なトラック数を入力し、トラックのタイプで **オーディオトラック** を選択します。



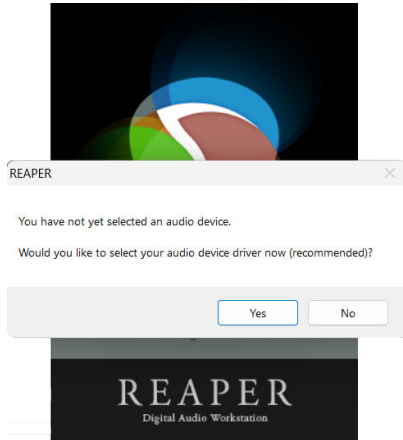
6. 作成をクリックします。
7. トラックのレコードアーム・ボタン これにより Scarlett から入力される信号を聴くことができます。
8. Pro Tools ウィンドウ上部の録音ボタン
9. 再生ボタン



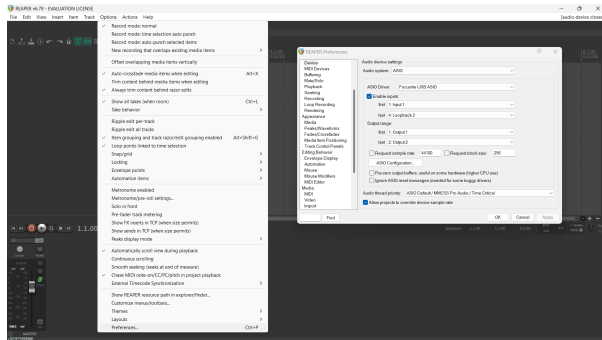
Reaper のセットアップ手順は、以下の通りです：

Windows

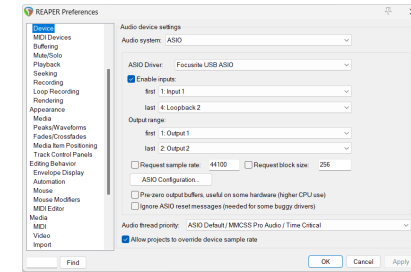
1. コンピュータにインストールされている Reaper を起動します。
2. オーディオ・デバイス・ドライバの選択を促すポップアップ・ウィンドウが表示された場合は、**Yes** をクリックします。



ポップアップ・ウィンドウが表示されなかった場合は、メニューから **Options > Preferences > Device** を選択します。

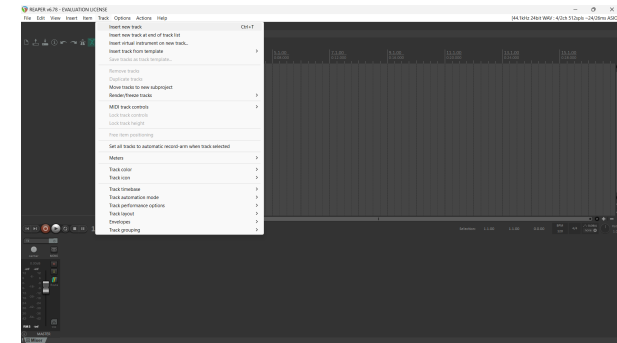


3. **Audio device settings** が表示されます。



- a. **Audio system:** ドロップダウン・メニューで **ASIO** を選択します。
- b. **ASIO Driver:** ドロップダウンメニューで **Focusrite USB ASIO** を選択します。
- c. 使用する入出力の範囲を **first** および **last** のドロップダウン・メニューから目的に応じて選択します。

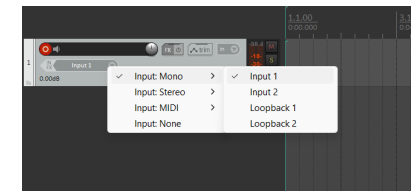
4. **OK** をクリックします。
5. トップメニューから **Track > Insert New Track** を選択します。



6. 赤色の録音アームボタンをクリックします。



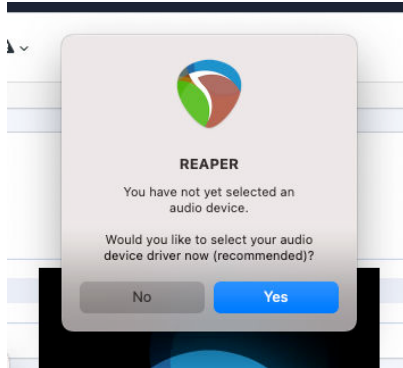
7. **Input 1** ボックスをクリックし、**Scarlett 18i20** の入力を選択します。



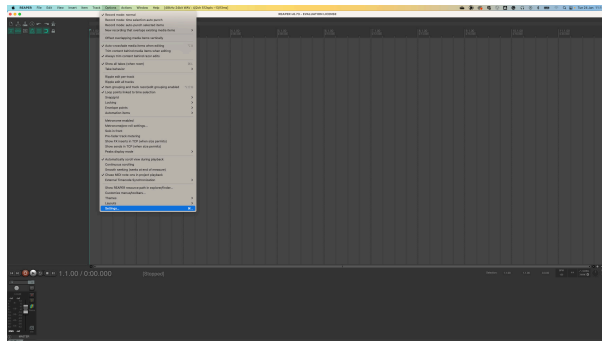
8. 録音の準備ができたなら、ウィンドウ下部の録音ボタンをクリックします。

Mac

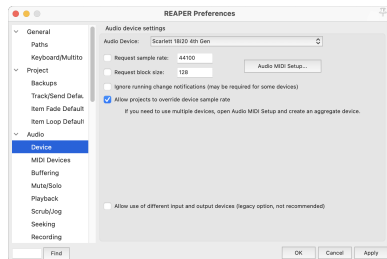
1. コンピュータにインストールされている Reaper を起動します。
2. オーディオ・デバイス・ドライバの選択を促すポップアップ・ウィンドウが表示された場合は、**Yes** をクリックします。



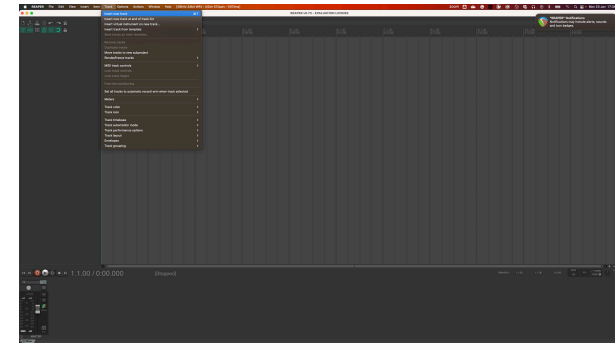
ポップアップ・ウィンドウが表示されなかった場合は、メニューから **Options > Settings > Device** を選択します。



3. **Audio Device** ドロップダウン・メニューで **Scarlett 18i20** を選択します。



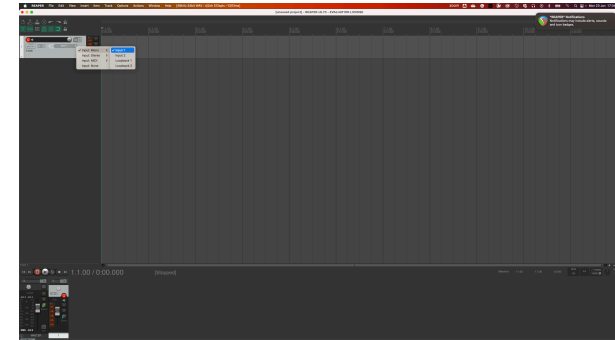
4. **OK** をクリックします。
5. トップメニューから **Track > Insert New Track** を選択します。



6. 赤色の録音アームボタンをクリックします。



7. **Input 1** ボックスをクリックし、**Scarlett 18i20** の入力を選択します。



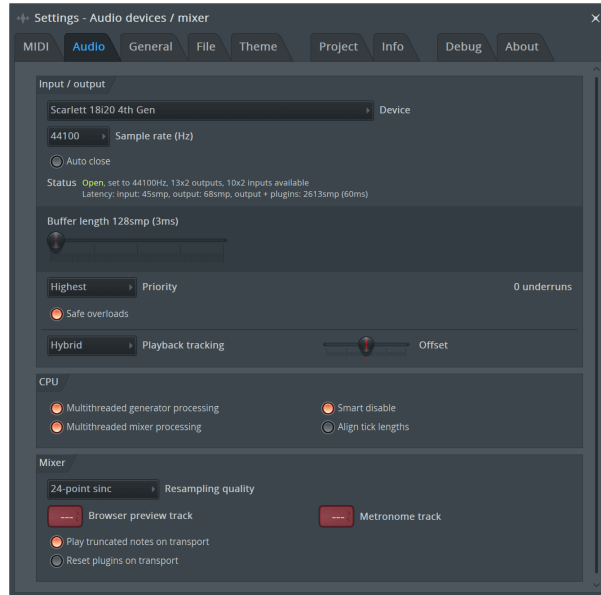
8. 録音の準備ができたなら、ウィンドウ下部の録音ボタンをクリックします。



FL Studio のセットアップ手順は、以下の通りです：

詳細な手順 (Windows および macOS)

1. コンピュータにインストールされている FL Studio を起動します。
2. **Options > Audio Settings** を選択します。
3. **Input / output** セクションの **Device** ドロップダウン・メニューで **Scarlett 18i20 4th Gen (Windows では Focusrite USB ASIO)** を選択します。



4. Settings ウィンドウを閉じます。
5. **Mixer** ウィンドウを開き、録音したいトラックのインサートを選択します。
6. **(none)** となっている外部入力のドロップダウン・メニューにて、使用するインターフェイス入力を選択します。例：モノラル入力の場合 **Input 1**、ステレオ入力の場合 **Input 1 - Input 2** を選択。



7. **Transport**・セクションの録音ボタンをクリックします。



- 表示される **What would you like to record?** ウィンドウで必要に応じて **オプション** を選択します。
選択オプションに関する詳細は、FL Studio のヘルプファイルをご参照ください。

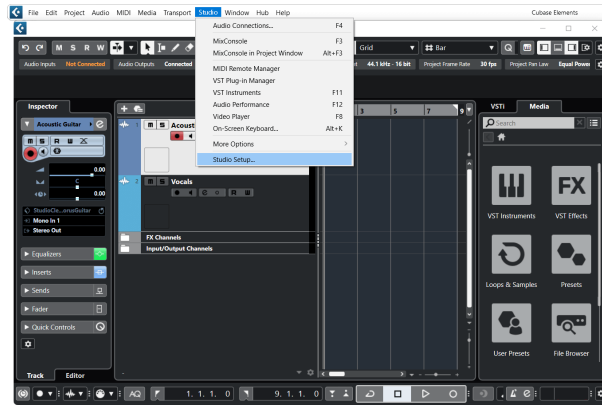
8. 録音の準備ができたら、**Transport**・セクションの再生ボタンをクリックします。



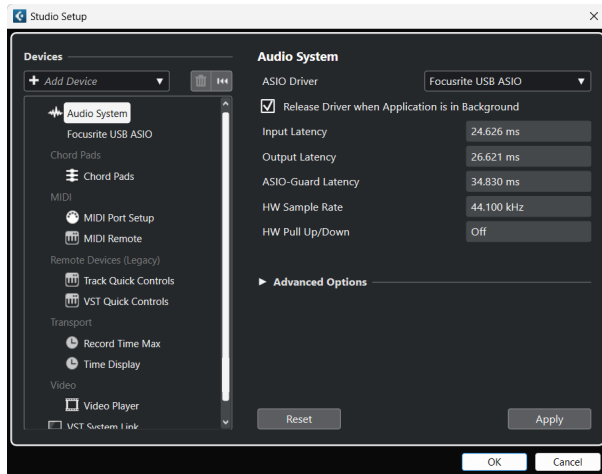


Windows

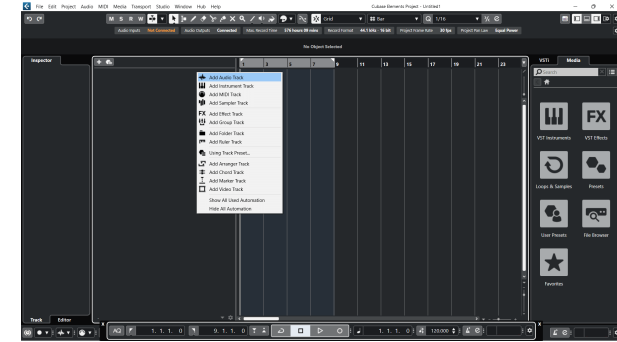
1. コンピュータにインストールされている Cubase を起動します。
2. トップメニューから Studio > Studio Setup... を選択します。



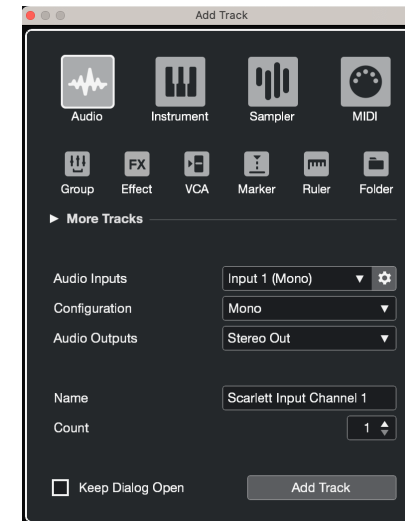
3. ウィンドウ左側の項目から、オーディオシステムを選択します。
4. **ASIO ドライバー・ポップアップ・メニューで Focusrite USB ASIO を選択します。**



5. OK をクリックします。
6. MixConsole 内を右クリックします。
7. Audio トラックを追加をクリックします。



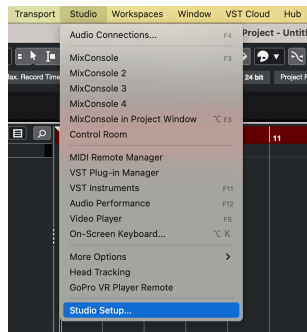
8. トラックタイプをオーディオに設定し、オーディオ入力をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。



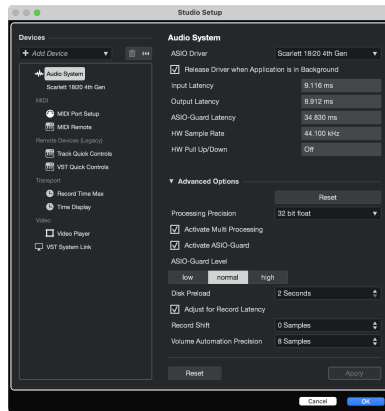
9. トラックを追加をクリックします。
10. 録音したい Cubase のチャンネルで録音可能ボタンとモニタリングボタン
11. トランスポートパネルで録音ボタン

Mac

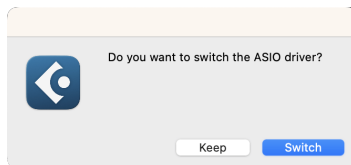
1. コンピュータにインストールされている Cubase を起動します。
2. トップメニューから Studio > Studio Setup... を選択します。



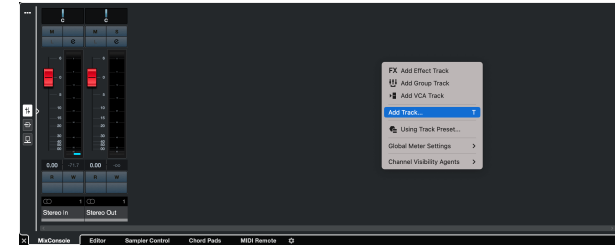
3. ASIO ドライバーを Scarlett 18i204th Gen に選択します。



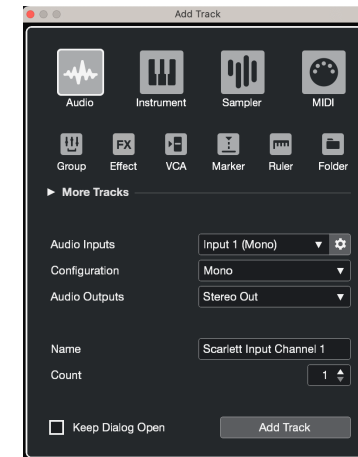
4. 切り替え をクリックします。





5. OK をクリックします。
6. MixConsole 内を右クリックします。
7. トラックを追加 をクリックします。



8. トラックタイプを オーディオ に設定し、オーディオ入力をお使いのインターフェースの入力チャンネルに設定します。



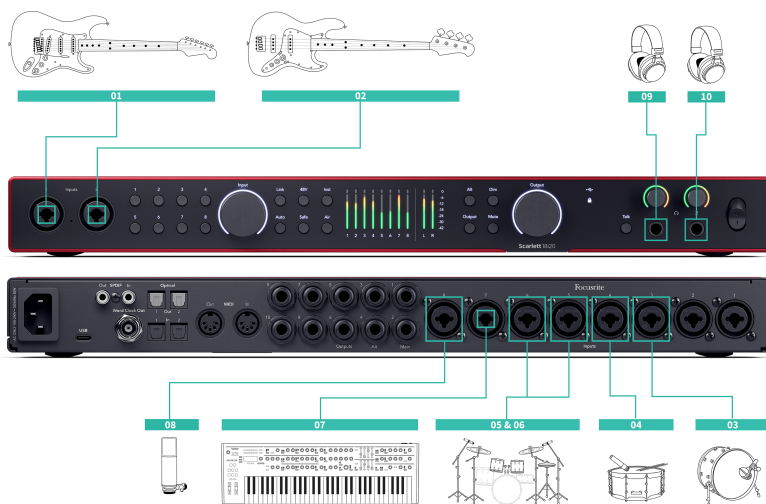
9. トラックを追加 をクリックします。
10. 録音したい Cubase のチャンネルで録音可能ボタンとモニタリングボタン 
11. トランスポートパネルで録音ボタン 



使用例

本章では、Scarlett 18i20 の一般的な使用例をいくつか紹介します。多くの場合、これらの使用例が Scarlett 18i20 を実際に使用する際のセットアップや使い方のヒントとなるはずですが、

Scarlett 18i20 でバンドのレコーディングを行うには



Scarlett 18i20 の 8 つのアナログ入力を活用すると、バンドの同時録音を行うことができます。

バンドの生演奏を録音すると、リハーサルや本番でのエネルギー感で一体感のあるフィードバックを捉えることができます。また、基本となるトラックを録音した後で、ボーカルやギター・ソロ、楽器のダブル・トラックなどを追加録音し、最終的な楽曲を作り上げることもできます。

上の図は、ギター、ベース、ドラム、キーボード、ボーカルによるバンドのレコーディング・セットアップの例です。バンドによって楽器やメンバー構成は様々ですが、基本的な録音方法として参考となるはずですが、

上図のバンド録音に必要な機器は以下の通りです。

- ギター - 6.35 mm (1/4 インチ) TS ジャック・ケーブル x1
- ベース・ギター - 6.35 mm (1/4 インチ) TS ジャック・ケーブル x1
- ドラム・キット - マイク x4、XLR ケーブル x4
- キーボード/シンセサイザー - 6.35 mm (1/4 インチ) TRS ジャック・ケーブル x1
- マイク x1、XLR ケーブル x1 (ボーカル用)

- ヘッドフォン (最大 2 台)

セットアップ

1. ギター - エレキ・ギターは、入力 1 に Inst モードで接続されています。ギター・アンプの音をマイクで別トラックに録音し、音作りに使用することも可能です。
2. ベース - ベース・ギターは、入力 2 に Inst モードで接続されています。DI ボックスを用いたレコーディングと同様の録音方法です。ベース・アンプの音をマイクで録音したり、またはアンプからの DI 出力を別トラックに録音し、音作りを行うことも可能です。
3. キック/バス・ドラム - バス・ドラムのマイクは入力 3 に接続しています。単独のトラックに録音することで、ドラム・キットの他の部分と別に、コンプレッサーや EQ をバス・ドラムのみに適用することができます。
4. スネア・ドラム - キック・ドラムと同様、スネア・ドラム専用のマイクを入力 4 に接続しています。スネアを単独のトラックに録音することで、スネア・ドラムのみコンプレッサーや EQ を適用することができます。
5. オーバーヘッド左チャンネル - 限られたチャンネル数でドラム・キットを録音する場合は、最も重要な部分 (バスやスネア) を個別に録音し、2 本のマイクをオーバーヘッド・マイクとして使用することでドラム・キットの残りの楽器を録音します。
6. オーバーヘッド右チャンネル
7. キーボード - 今回の例ではキーボードを Scarlett 18i20 のリア・パネルのライン入力に接続しています。バンド構成によっては、キーボードの代わりに別の楽器をこの入力に接続できます。
8. ボーカル・マイク - ボーカリスト用マイクです。ボーカリストが他の演奏者と同じ室内で同時録音する場合は、他の楽器との分離を考慮しダイナミック・マイクの使用をお勧めします。ボーカリストが別の録音ブースで歌う、またはボーカルを後で録音する場合は、よりディテール豊かな歌声を録音できるコンデンサー・マイクの使用をお勧めします。
9. ヘッドフォン - ミュージシャンまたはエンジニアがモニター・ミックスを聴くためのヘッドフォンです。ヘッドフォン出力が足りない場合は、シンガーやドラマーなど必要な人に優先的にヘッドフォンを渡して下さい。予備のヘッドフォン出力のほか、ライン出力にヘッドフォン・アンプを接続することも可能です。
10. 2 台目のヘッドフォン

ドラム・キットのレコーディング

本セクションでは、Scarlett 18i20 の eight つのマイク・プリアンプでドラム・キットをマイク録音する方法を紹介します。また、搭載する入力チャンネルを最大限に活用する方法についても詳しく解説します。

下図では、どのドラム楽器が Scarlett 18i20 の各入力チャンネルに接続されているかを示しています。



1. キック
2. スネア
3. タム 1
4. タム 2
5. オーバーヘッド左チャンネル
6. オーバーヘッド右チャンネル
7. エンジニア用ヘッドフォン
8. ドラマー用ヘッドフォン

2つの入力チャンネルが未使用となっていますが、ドラム・キットのサウンドをさらに作り込みたい場合は、特定のドラム楽器専用のマイクを追加で設置することもできます。また、ADAT 経由でマイク・プリアンプを追加することで、最大 16 本のマイク入力を実現できます。以下は、ドラム・キットにマイクを追加する場合の使用例です。

- ルーム・マイクロフォンのペア (室内の残響が良い場合など)
- ハイハットのマイク (ドラマーが細かいニュアンスでハイハットを叩く場合など)
- シンバルのスポットマイク。
- タム用の追加マイク (タムが複数ある場合)
- スネアに 2 本のマイク (トップとボトム) を設置 (多くの場合一方のマイク極性が反転されます)
- キックに 2 本のマイクを設置



ヒント

ドラム・キットのオーバーヘッド・マイクの設置方法は、音楽のスタイルによっても様々な手法が存在します。

現代の録音現場では多くの場合、ステレオ・マイクをオーバーヘッドに使用しますが、往年のヴィンテージでコンパクトなサウンドを求める場合は、モノラルのオーバーヘッド・マイクも使用されています。

オーバーヘッド・マイクに関するより詳しい情報は、以下のマイキング・テクニックについて調べることをお勧めします。

- 間隔 (A/B) 方式
- XY 方式
- ニア・コインシデント
- グリン・ジョンズ・テクニック



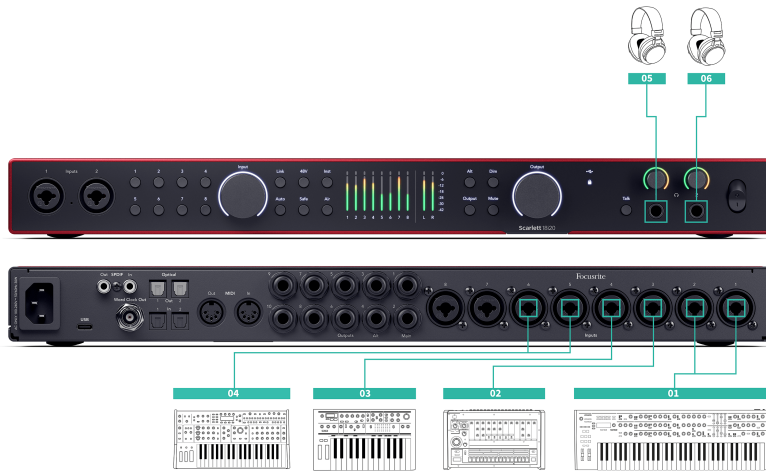
注記

2本のオーバーヘッド・マイクをリンクできるように、1本目のオーバーヘッド・マイクが奇数番号の入力チャンネルに接続されていることをご確認ください。これによりチャンネルをリンクでき、2本のオーバーヘッド・マイクに同じ設定を適用できます。詳細は、[プリアンプをリンク \[14\]](#)をご参照ください。

ハードウェア機材を使った電子音楽のレコーディング

ハードウェア機材によるセットアップを録音する場合、Scarlett 18i20 のライン入力レコーディング・システムの中核として機能します。ほとんどのハードウェア機材（シンセサイザー、ドラム・マシン、グルーヴ・ボックス、ミキサー、エフェクターなど）はライン出力を備え、6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャック・ケーブルで信号を出力します。そのため、セットアップ全体の同時録音が可能です。

下図は、モノラルまたはステレオ出力を備えるシンセやドラム・マシンによる電子音楽機材のセットアップ例です。お使いの楽器構成と異なる場合でも、基本的な録音方法は同様です。



1. ステレオ・シンセを 2 本の 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャック・ケーブルで接続。
2. ステレオ・ドラム・マシンを 2 本の 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャック・ケーブルで接続。
3. モノ・シンセを 1 本の 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャック・ケーブルで接続。
4. 2 台目のステレオ・シンセを 2 本の 6.35mm（1/4 インチ）TRS ジャック・ケーブルで接続。
5. エンジニア用ヘッドフォン（録音信号をモニタリング）。
6. 2 台目のヘッドフォン（必要な場合）。また、この出力をレコーディングに使用することもできます。詳細は、以下のヒントをご参照ください。



ヒント

Scarlett 18i20 は、スタンドアロンでも使用可能です。コンピューターや DAW を一切使用せずに、ライン出力や 2 つ目のヘッドフォン出力からポータブル・レコーダーやミキサーに対し、ステレオ出力を送信できます。ライブ・パフォーマンスに最適なこのセットアップの詳細は、[スタンドアロン・モード \[49\]](#)をご参照ください。

アコースティック・セッションのレコーディング

本セクションでは、生楽器によるシンプルな構成のパフォーマンスやライブ・セッションの録音方法について解説します。

下図は、一般的な生楽器のセッションで使用される楽器が、Scarlett 18i20 の入力チャンネルでどのように録音されるかの例が示されています。



- ステレオ・マイクのセットアップ - より細かなニュアンスや空気感を取り込みたい場合は、ステレオ・マイクをセットアップすると良いでしょう。使用例は以下の通りです。
 - シンガソングライターのギターにステレオ・マイクを設置。
 - ピアノにステレオ・マイクを設置。
 - バンド全体の前面にステレオ・マイクを設置。
- 各楽器にマイクを設置 - 各楽器、音声、アンプの音を個別に拾うことができます。
- ボーカル用マイク - メインのボーカリスト用にマイクを設置します。
- ライン入力 - ベース・アンプのライン出力やキーボードのライン出力など、アコースティックではない信号はライン入力で録音します。
- エンジニア用ヘッドフォン - 録音中の信号をモニターするためのヘッドフォン。
- アーティスト用ヘッドフォン - 通常、バンドのライブでは必要ないかも知れませんが、バックトラックやメトロノーム、または特定のチャンネルを聴きながら演奏したいとメンバーから要求された場合は、2 台目のヘッドフォンをアーティスト用に使用できます。

スタンドアローン・モード

Scarlett 18i20 は、コンピュータに接続してなくても単独で動作してオーディオ信号を送ることができるスタンドアローン・モードを備えます。スタンドアローン・モードは、以下の用途などに活用できます：

- 他のインターフェースやミキサーのマイクプリアンプの数を追加したい場合。この場合は、次を使用してプリアンプ数を増やすことが可能です。
 - 他のインターフェースの未使用のライン入力を使用
例えば、Scarlett のマイク入力をライン出力にルーティングすることでプリアンプの使用が可能となります。
 - S/PDIF 入出力を使用
 - ADAT 入力を使用
- コンピュータを起動したり接続したりせずに、スタジオセットアップを使用したい場合 - ギターやその他の電子楽器の音を、コンピュータを使用せずにスピーカーから直接出力できます。

スタンドアローン・モードを有効にするには：

- Scarlett の電源ソケットに電源ケーブルを接続します。
- Focusrite Control 2 が起動中のコンピュータに Scarlett 18i20 を接続します。Focusrite Control 2 のミキサー・ページを開き、Scarlett 18i20 の入力と目的の接続先をルーティングします。詳細は、[Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する \[51\]](#)をご参照ください。
例えば、マイク入力を ADAT 出力にルーティングすることで、Scarlett 18i20 は単体のマイク・プリアンプとして動作し、他のインターフェースのマイク入力数を ADAT 接続で拡張することができます。
- Scarlett 18i20 をコンピュータから取り外します。切断後、本体はスタンドアローン・モードで動作し、オーディオ入力信号が設定した出力から送出されます。
- 通常通りインターフェースに入出力を接続します ([使用例参照](#)) #UUID-e48348e9-51d5-5864-bead-89d7c3b8bef3_UUID-baad5eb5-7f87-a931-5ba6-accfef648065

ループバック機能の使用

Scarlett 18i20 のループバック機能を使うと、コンピュータから送信されるサウンドを物理的なケーブルを使用せずに、レコーディングやストリーミングに取り込むことができます。サンプリング、ポッドキャスト、ライブ配信、ストリーミング、画面チュートリアルなどの録画など、さまざまなシナリオで役立つ機能です。

- ・ サンプリング：ソフトウェアの出力を録音し、楽曲で使用するサンプルを作成できます。
- ・ ポッドキャスト：オンライン会議やインタビューを録音し、番組に取り込むことができます。あなたとリモート参加者の音声を同時にキャプチャー可能です。
- ・ ライブ配信：ゲームやプレゼンテーション、チュートリアルなど、コンピュータからの音声を伴うコンテンツを配信する場合に活用できます。
- ・ スクリーン・レコーディング：ビデオ・チュートリアルやスクリーンキャストを作成する際、コンピュータ画面の音声とナレーションを同時に録音することができます。

Scarlett でループバックを使用するには：

1. DAW または録音ソフトウェアを開きます。
2. DAW で新規録音チャンネルを作成し、そのチャンネルの出力をミュートまたは「出力なし」に設定します。信号のフィードバックを防ぐための重要な設定です。
3. ミュートされたチャンネルの入力ソースを、Scarlett 18i20 の Loopback チャンネル channels 9-10 に設定します。
4. 録音を開始します。

録音ソフトウェアのチャンネルには、Scarlett の出力信号が入力されます。録音ソフトウェアの他のチャンネルを使用することで、ループバック信号と一緒に Scarlett の入力に接続されたあらゆる信号を録音可能です。

また、Scarlett 内で任意のオーディオ・ソース（プリアンプに接続された楽器やコンピュータからのオーディオ信号など）を組み合わせたミックスを作成することもできます。ループバックを使用することで、楽器とバックিং・トラックによるミックスをオンライン・コンサートで使用したり、ゲーム音声とマイク入力のミックスをライブ配信することができます。詳細は、[Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する \[51\]](#)をご参照ください。



重要

ループバック使用の際は、フィードバックループの発生を防ぐため、録音ソフトウェアのチャンネルをミュートしてください。

Focusrite Control 2 を Scarlett 18i20 で使用する

Focusrite Control 2 は、Scarlett インターフェースを管理するためのソフトウェアです。ルーティング、モニタリング、ミキサーなど様々な設定が行えるほか、ファームウェア・アップデートなども実行できます。

Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する

Scarlett 18i20 は、Focusrite Control 2 の Mixer ページで操作可能なミキサー機能を備えます。ルーティング・タブを使用することで、複数の入力ソースを Scarlett 18i20 の物理出力に送信できます。[54] [54]



利用可能な入力ソース：

- 物理入力
 - アナログ入力 (インストゥルメント、マイクまたはライン入力)
 - デジタル入力 (ADAT または S/PDIF)
- 再生入力
 - DAW ソフトウェアからの出力チャンネル
 - その他のソフトウェアからの再生チャンネル



入力ソースを組み合わせて作成したミックスは、スピーカー用のミックスや演奏者用のヘッドフォンミックスなどとして、Scarlett 18i20 の出力に送信できます。

ミックス

Focusrite Control 2 の Mixer ページ上部のタブにて、Mix A、Mix B など複数のミックスの表示を切り替えることができます。



各ミックスでは入力ソースの組み合わせを個別に調整でき、必要に応じて別々の出力に送信できます。例えば Mix A をスピーカー出力用ミックス、Mix B をシンガー用のヘッドホンミックスとして使用することができます。シンガーが自分の歌声のみをより大きなレベルで聴きたい場合は、Mix B のボーカルチャンネルのレベルだけを上げることでこれを実現できます。



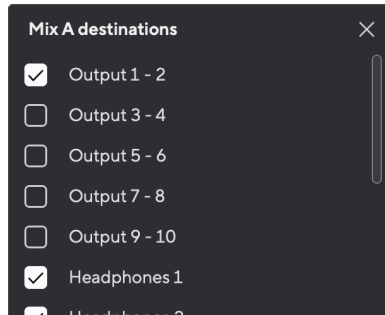
ヒント

Focusrite Control 2 では、一度に複数のミックスを扱うことができます。

各ミックスは、個別に動作します。たとえば、Mix A をスピーカーに、Mix B をヘッドフォンにそれぞれ個別に送信することが可能です。ただし、各出力では一度に1つのミックスのみを割り当てることができます。使用中の出力に新たにミックスを割り当てた場合、それまで割り当てられていたミックスはその出力に送信されなくなります。

各 Mix タブをクリックすると、目的のミックスを選択できます。選択したミックスは、任意の出力にルーティングできます。手順は以下の通りです：

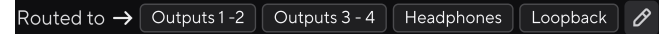
1. 既存の出力、または **接続先** → 右の鉛筆アイコン
2. ミックスを出力したい **接続先にチェックを入れます。**



例えば、スピーカーが接続されている Outputs 1-2 とヘッドフォン出力の両方に Mix A を割り当てると、ヘッドフォンとスピーカーで同じミックスを聴くことができます。

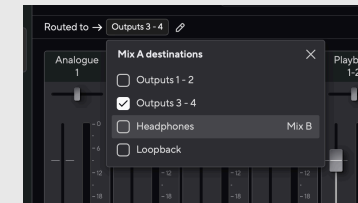
- 3.

ミキサーチャンネル上部にて、ミックスがどの出力にルーティングされているかを確認できます。ミックスの出力先が設定されていない場合、**No outputs assigned** と表示されます。



注記

各出力に割り当てることができるミックスは、1つのみです。例えば、ヘッドフォン出力に Mix A と Mix B を同時に割り当てることはできません。送信先に既に別のミックスが割り当てられている場合、ミックス接続先ポップアップに割り当て済みのミックス名が表示されます。既にミックスが割り当てられている接続先に新たにミックスを割り当てると、新しい接続先が上書きされて設定されます。



注記

Focusrite Control 2 のルーティング・タブにて、各ミックスの出力先の変更も行えます。詳細は、[Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する \[54\]](#)をご参照ください。

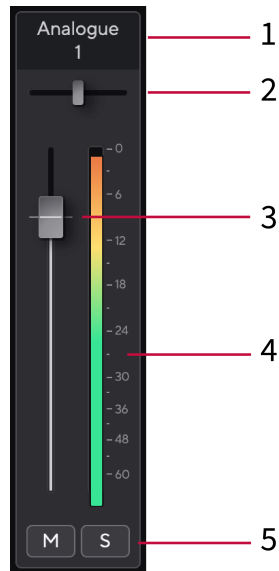
ループバックの送信先

作成した任意のミックスを録音したい場合は、**Loopback** を送信先として選択します。詳細は [ループバックの章](#)をご参照ください。

ミキサーチャンネルを使用する

各ミキサーチャンネルでは、様々な設定が行えます。

ミュートとソロを同時に有効にすると、最後にクリックされたボタンが優先的に有効になります。



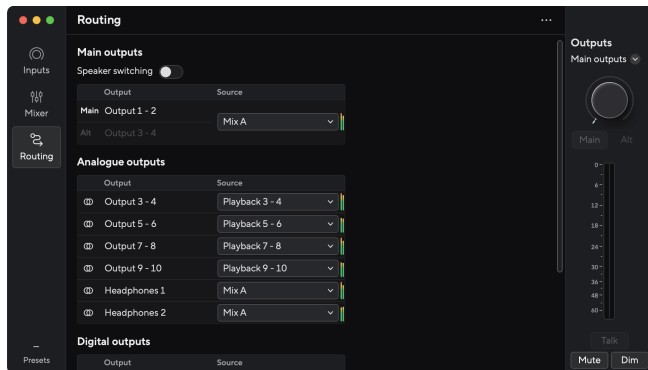
1. **ミックス・チャンネル名**
ミキサー入力名が表示されます。
2. **パン**
モノラルチャンネルの定位をステレオイメージ内で左右に調整します。またはステレオチャンネルの左右バランスを調整します。デフォルトでは中心に設定されています。Alt、option へキーを押しながらクリックするか、ダブルクリックでリセットできます。
3. **フェーダー**
送信先に送られる信号レベルを調整します。Alt、option へキーを押しながらクリックするか、ダブルクリックでリセットできます。
フェーダーは、録音されるソースの信号レベルには影響しません。
4. **メーター**
チャンネルレベルを dBFS 単位で表示します。緑色はレベルが良好、橙色はレベルが非常に高いことを示します。
ステレオチャンネルでは2つのメーターが表示され、左右チャンネルのレベルを確認できます。
メーターは、ポストフェーダーのレベルを表示します。つまりフェーダーの値がメーター表示に影響します。
5. **ミュートおよびソロ**
ミュート・ミュート・ボタン **M**
ソロ・ソロ・ボタン **S**

Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する

Focusrite Control 2 のルーティング・タブでは、Scarlett の出力に送信する入力信号とミックスのルーティングを設定できます。

ルーティング・タブを開くと、Sources および Outputs のリストが表示されます。

- Output リストには、Scarlett の各出力が表示されています。Analog Output にはアナログ出力 (ライン出力、ヘッドフォン出力) が、Digital Outputs にはデジタル出力 (S/PDIF、ADAT、Loopback) がリスト表示されます。
- Source リストでは、各出力に送信するソース信号を選択できます。本体の入力や DAW (ソフトウェア) 再生チャンネルのほか、それらを組み合わせたミックスもソース信号として選択できます。ミックスは Focusrite Control 2 で作成できます。詳細は、[Focusrite Control 2 のミキサー・タブを使用する \[51\]](#)をご参照ください。



Focusrite Control 2 のルーティング・タブ

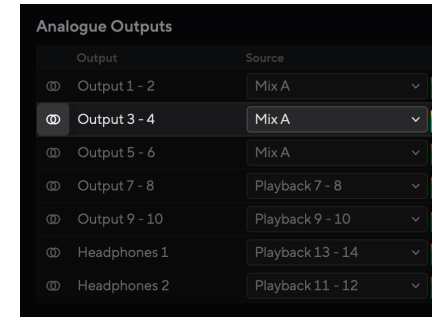
ソースを出力に割り当てるには、Output リストから目的の出力を探し、Source ドロップダウン・メニューをクリックします。割り当てたいソースをクリックすると、選択したソースが該当する出力に送信されます。右側のメーターは、送信中の信号レベルを表示します。

各出力に割り当てることができるミックスは、1つのみです。例えば、ヘッドフォン出力に Mix A と Mix B を同時に割り当てることはできません。送信先に既に別のミックスが割り当てられている場合、ミックス接続先ポップアップに割り当て済みのミックス名が表示されます。既にミックスが割り当てられている接続先に新たにミックスを割り当てると、新しい接続先が上書きされて設定されます。

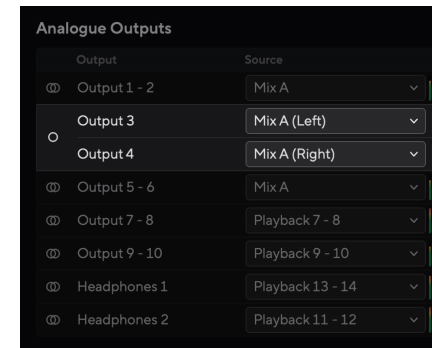
Focusrite Control 2 で出力をモノラルに変更する

ルーティング・タブでは、ステレオ出力を2つのモノラル出力に分割し、完全に別の出力先としてソースを個別に割り当てられます。モノラル信号をアウトボード機器に送信したり、ミックスの確認にモノラル・スピーカーを使用したい場合などに便利な機能です。

ステレオ出力を2つのモノラル・チャンネルに分割するには、出力リストの各ステレオ・ペアの左にあるステレオ・アイコンをクリックします。



単一のステレオ出力が2つのモノラル出力に拡張され、各出力で Source ドロップダウン・メニューを個別に選択できるようになります。



左のモノラル・アイコンをクリックすると、2つのモノラル出力がステレオ出力に復帰します。

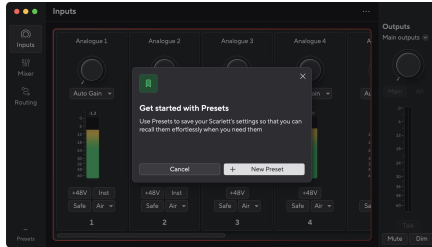


ループバック

作成した任意のミックスを録音したい場合は、Loopback を送信先として選択します。詳細はループバックの章をご参照ください。

プリセットの使用 Focusrite Control 2

プリセットを使用すると、Scarlett の設定をすばやく復元できます。特定のセッションやセットアップに合わせて設定を変更し、名前付きプリセットとして保存できます。次回これらの設定を呼び出す必要がある場合は、プリセットをロードできます。



プリセットには、以下の設定が含まれます：

- 各チャンネルの入力設定：
 - Input Gain
 - +48V
 - Inst
 - セーフモード
 - Air モード
 - チャンネル・リンク
- ミキサー設定
 - ミックスの接続先 (→)
 - パンおよびバランス
 - フェーダー・レベル
 - ミュートおよびソロのステータス



注記

Focusrite Control 2 のプリセットは、保存時に使用しているコンピュータに保存されます。保存したプリセットは、別のコンピュータやスタンドアローン・モードで使用することもできます。

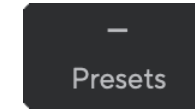
プリセットの保存

Focusrite Control 2 でプリセットを使用するには、まず設定を変更します。設定の変更が完了し、後日再び利用したい設定がある場合は、プリセットを保存します。プリセットの保存には、新しいプリセットを保存するか、既存のプリセットを上書きするかの2つの方法があります。

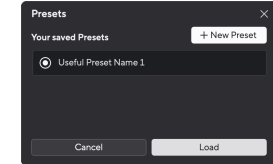
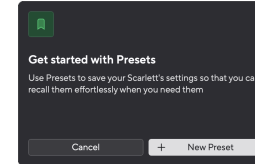
新しいプリセットの保存

1. Scarlett の設定を Focusrite Control 2 で調整します。

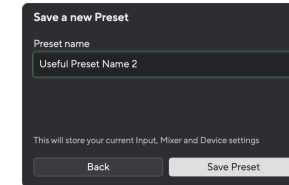
2. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。



3. 「新しいプリセット」ボタンをクリックします。

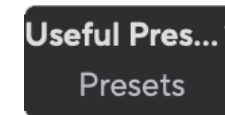


4. 「Preset 名」フィールドにプリセットの名前を入力します。あとで探しやすい名前を付けることをお勧めします。



5. 「Preset を保存する」をクリックします。

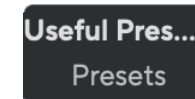
プリセットを保存すると、プリセットの名前が Focusrite Control 2 の左下に表示されます。そのプリセット内で設定を変更すると、プリセット名にアスタリスク*が表示され、設定が変更された事を示します。



プリセット名にアスタリスク*が表示されている場合は、プリセットの設定のいずれかが変更されたことを示します。上述の手順を使用して新しいプリセットを作成するか、変更されたプリセットを上書きすることができます。

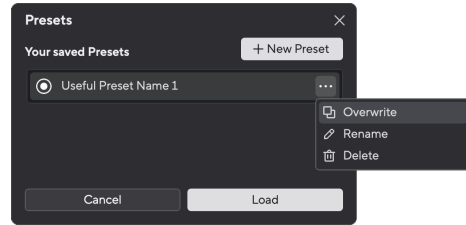
プリセットを上書きする

1. 既存のプリセットから設定を変更すると、プリセット名の横にアスタリスク*が表示されます。
2. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。



3. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある3つのドット⋮

4. 「上書き」をクリックします。



5. 表示されるポップアップを確認し「上書き」ボタンをクリックすると、既存のプリセットが上書きされます。



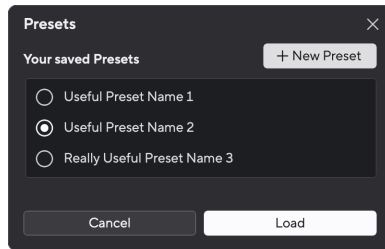
注意

プリセットを上書きすると、保存されていたプリセットの設定が現在の設定に置き換えられます。この操作は取り消しできません。

プリセットの読み込み

プリセットを読み込むと、一連の設定を以前保存した状態に復元することができます。

1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。
2. 読み込みたいプリセットをクリックします。

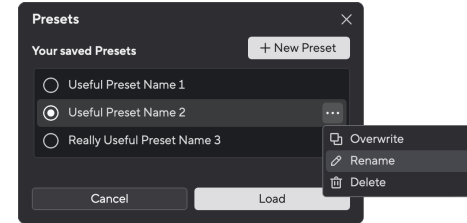


3. 「読み込む」ボタンをクリックします。

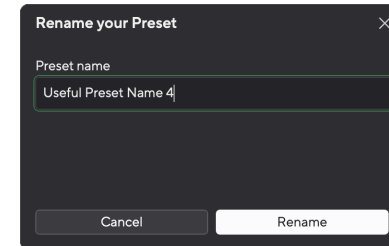
プリセット名の変更

保存された設定を変更せずにプリセット名を変更できる機能です。

1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。
2. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある3つのドット
3. 「名前を変更する」をクリックします。



4. 新しいプリセット名を Preset 名フィールドに入力します。



5. 「名前を変更する」を選択します。

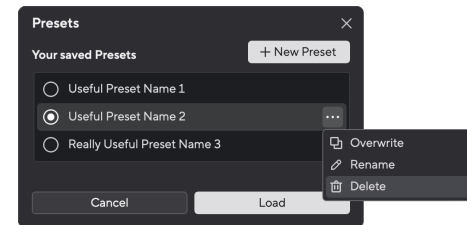
プリセットの削除



注意


Focusrite Control 2 で削除したプリセットを復元することはできず、削除の操作をアンドゥすることもできません。プリセットを削除しても、インターフェイスの設定は変更されません。

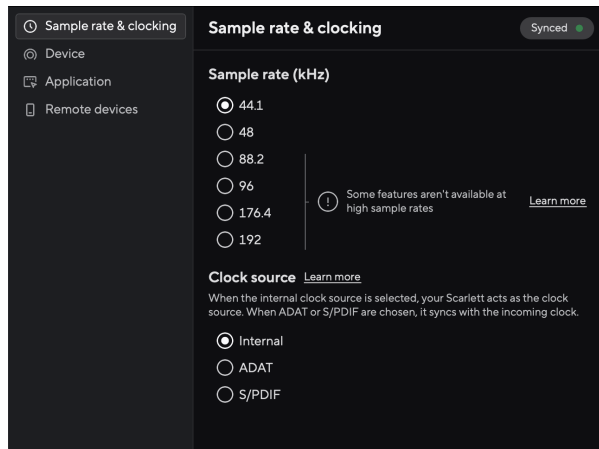
1. Focusrite Control 2 ウィンドウ左下のプリセット・ボタンをクリックします。
2. 既存のプリセットにマウスを合わせ、プリセット名の右にある3つのドット
3. 「削除」をクリックします。



4. 表示されるポップアップを確認し「削除」ボタンをクリックすると、既存のプリセットが削除されます。

Focusrite Control 2 初期設定

Focusrite Control 2 ウィンドウ右上のリーダー・アイコン 



初期設定ページでは、以下のタブで各設定が分類されています。

- Sample rate & clocking
- デバイス
- アプリケーション
- リモートデバイス

Sample rate & clocking タブ

サンプルレート (kHz)

サンプルレートとは、コンピュータが 1 秒間に録音を行うサンプル数のことです。サンプルレートが高いほど高音質になりますが、それに伴い録音データのサイズが大きくなり、より多くのハードディスク容量が必要となります。



注記

以下の機能は、クワッドバンド (サンプルレート 176.4kHz および 192kHz) では使用できません。

- Air Presence & Drive (Air Presence は利用可能)
- Clip Safe
- ミックスソース
- コアキシャル S/PDIF
- オプティカル S/PDIF
- ADAT チャンネル

クロックソース

ここでは、お使いのセットアップで Scarlett を同期する方法を設定します。通常は内部クロックを使用しますが、他の機器を Scarlett の ADAT または S/PDIF 入力に接続している場合は、クロック・ソースを変更することができます。詳細は、[Scarlett で ADAT と S/PDIF を使用する方法と同期ステータス \[26\]](#)をご参照ください。

以下のクロックソースを使用できます。

- 内部
- ADAT
- S/PDIF

デジタル入出力モードの設定 - 近日公開

チャンネルの順序や、同時に使用できるチャンネルの詳細については、[Scarlett 18i20 製品仕様 \[62\]](#)をご参照ください。

S/PDIF モード

Scarlett のオプティカル・ポートは、ADAT または S/PDIF 信号のいずれかを受信するように設定できます。

以下の 2 つのモードを選択できます。

- **RCA (コアキシャル) S/PDIF モード - コアキシャル S/PDIF 機器と Scarlett のコアキシャル・ポートを接続するには、このオプションを使用します。**
 - シングルバンドのサンプルレートでは、コアキシャル S/PDIF を使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 8 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
 - デュアルバンドのサンプルレートでは、コアキシャル S/PDIF を使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 4 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。オプティカル入力 2 は無効となります。
 - クワッドバンドのサンプルレートでは、オプティカル・ポートが無効となります。コアキシャル S/PDIF 入力も無効となります。
- **オプティカル S/PDIF モード - オプティカル In/Out 2 をオプティカル S/PDIF ポートとして使用します。**
 - シングルバンドのサンプルレートでは、オプティカル In/Out 2 をオプティカル S/PDIF として使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 8 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
 - デュアルバンドのサンプルレートでは、オプティカル In/Out 2 をオプティカル S/PDIF として使用しながら、オプティカル In/Out 1 で 4 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
 - クワッドバンドのサンプルレートでは、オプティカル・ポートが無効となります。コアキシャル S/PDIF 入力も無効となります。

ADAT モード

デュアルバンド・サンプルレート (88.2kHz および 96kHz) の ADAT モードでは、オプティカル In/Out 2 で ADAT チャンネルを送受信できます。

- ADAT モードを Dual に設定すると、デュアルバンド時に ADAT 入出力で 8 チャンネルの送受信が行えます。このときオプティカル In/Out 1 とオプティカル In/Out 2 でそれぞれ 4 チャンネルの信号が扱われます。

- ADAT モードでは、S/PDIF (コアキシャルおよびオプティカル) はいずれも無効となります。
- シングル ADAT モードでは、デュアルバンドのサンプルレートで ADAT 入出力は 4 チャンネルのみを取り扱います。
- シングル ADAT モードでは、RCA (コアキシャル) またはオプティカル S/PDIF のいずれかを使用できます。



注記

シングルバンドまたはクワッドバンドのサンプルレートでは、この設定はオプティカル・ポートには影響しません。

- シングルバンドのサンプルレートでは、オプティカル In/Out 1 で 8 チャンネルの ADAT 信号を送受信できます。
- クワッドバンドのサンプルレートでは、オプティカル・ポートが無効となります。



注記

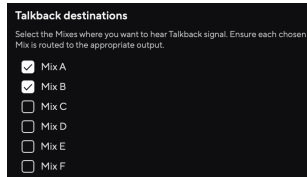
デバイスのリセット機能は、プリセットを削除しません。初期設定にリセット後も保存済みのプリセットから以前の設定を復元することができます。

デバイス・タブ

トークバックの送信先

トークバック機能を使用するには、トークバック・マイク信号をどの出力に送信するかを Scarlett に設定する必要があります。設定方法は以下の通りです。

1. トークバック信号を送信したい Mix のチェックボックスを有効にします。



2. ルーティング・タブにて、ソースとして出力に送信したいミックスを割り当てます (例 : Mix A と Mix B を Headphones 1 と Headphones 2 に送信) 。
詳細は、Focusrite Control 2 のルーティング・タブを使用する [54] をご参照ください。

デバイスのリセット

デバイスのリセットを実行すると、Scarlett を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。リセットを実行することで、現在の入力、ミキサー、およびサンプルレートの設定がすべて消去されます。

デバイスをリセットするには :

1. 「デフォルト設定にリセット」ボタンをクリックします。
2. 確認を促すポップアップが表示されます。
3. 「リセット」をクリックします。

アプリケーション・タブ

使用状況に関する情報を Focusrite と共有する

このチェックボックスを有効にして、使用状況データの共有に同意していただくことが Focusrite Control 2 の改善に役立ちます。詳細は、[個人情報保護方針](#) をご参照ください。

リモートデバイス - Focusrite Control 2 モバイル・アプリのインストール

Focusrite は Focusrite Control 2 のリリースに合わせて、Focusrite Control 2 モバイル・アプリも公開しています。

モバイル・アプリを使用すると、同じ Wi-Fi ネットワークに接続されているモバイル機器から、コンピューターで実行中の Focusrite Control 2 をコントロールしたり、設定を確認することができます。

リモートデバイス・タブでは、以前に Focusrite Control 2 に接続したスマートフォンやタブレットを管理できます。

Focusrite Control 2 アプリは Android および iOS に対応し、Google Play Store または Apple App Store からダウンロードできます。以下のリンクまたは QR コードからストア・ページにアクセス可能です。

fc2.focusrite.com/mobile/download



注記

Focusrite Control 2 モバイル・アプリは、コンピューターで起動している Focusrite Control 2 をコントロールします。

アプリから Scarlett を直接コントロールすることはできません。

Focusrite Control 2 および Scarlett 18i20 のアップデート

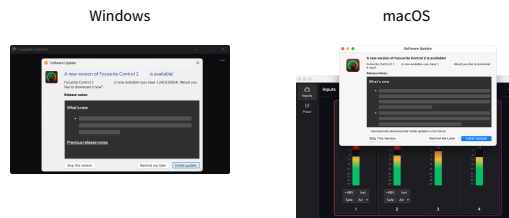
Focusrite Control 2 のアップデート


Focusrite では、ユーザーの皆さまが Focusrite Control 2 を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett 18i20 のアップデートを臨時提供しています。

以下の 2 つの方法で、Focusrite Control 2 が最新バージョンであることを確認できます：

1. Focusrite Control 2 内でアップデーターを使用:

1. Focusrite Control 2 を起動します。
2. Focusrite Control 2 では、2 通りの方法でアップデートが可能です。
 - a. アップデートが検出されると、ダイアログ・ウィンドウが自動的に表示されます。Install Update をクリックすると、アップデートが開始されます。



- b. 最新バージョンであるかを確認するには、Focusrite Control 2 アプリケーション・ウィンドウ右上のリーダーアイコン  をクリックします。
3. アップデーターのダウンロードが完了すると表示されるポップアップ・ウィンドウで Install Update (Windows) または Install and Relaunch (macOS) をクリックします。
macOS では、Focusrite Control 2 が再起動した時点で最新バージョンへのアップデートが完了しています。Windows の場合は次のステップに進んで下さい。
4. 「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」のメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
5. Focusrite Control 2 のインストーラー画面の指示に従いインストールを進めます。
6. 「完了」をクリックし、インストールを終了します。これで更新は完了です。Focusrite Control 2 が再び起動し、最新バージョンをお使いいただけます。

2. Focusrite のダウンロードページから Focusrite Control 2 をダウンロードします：

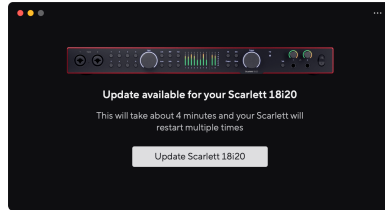
1. Focusrite のダウンロードページにアクセスします。
[focusrite.com/downloads https://downloads.focusrite.com/focusrite](https://downloads.focusrite.com/focusrite)
2. お使いの Scarlett を選択します。
3. お使いのオペレーティング・システム (Windows または Mac) を選択し、Focusrite Control 2 をダウンロードします。
4. コンピュータのダウンロード・フォルダーを開き、Focusrite Control 2 インストーラーをダブルクリックします。
5. 画面の指示に従って Focusrite Control 2 をインストールします。
6. まだ接続していない場合は、Scarlett インターフェースを USB ケーブルでコンピューターに接続します。
7. Focusrite Control 2 を起動すると、Scarlett が自動的に認識されます。

Scarlett 18i20 のアップデート

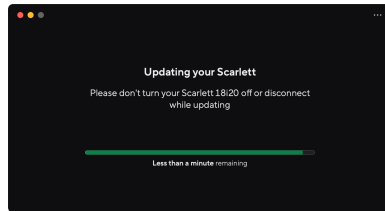
Focusrite は、お客様が Scarlett 18i20 を最大限に活用いただけるよう、新機能の追加や改善を施す Scarlett のアップデートを臨時提供しています。Scarlett 18i20 のファームウェアは、Focusrite Control 2 からアップデート可能です。

Scarlett をアップデートするには：

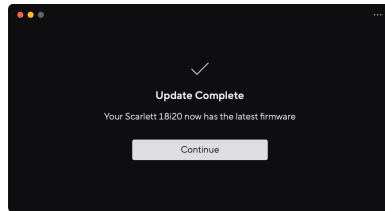
1. Focusrite Control 2 を起動します。
アップデートが利用可能な場合は、起動時にメッセージが表示されます。



2. Update Scarlett 18i20 をクリックします。
Focusrite Control 2 がアップデートを開始します。アップデート中は Scarlett 18i20 の接続を取り外さないでください。



3. アップデート完了後、Continue をクリックします。



以上で Scarlett 18i20 は最新版にアップデートされ、通常通りご使用いただけます。

Scarlett 18i20 製品仕様

以下の仕様は、お使いの機器が Scarlett 18i20 で使用できるか確認するための参考情報となります。通常 Scarlett 18i20 は、ほとんどの機器で使用可能なため、これらの情報に関する知識がなくても問題ございません。

性能仕様

実測値は、可能な限り AES17 に準拠して測定しています。

対応サンプリングレート	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz
ビット深度	24 ビット

マイク入力

周波数特性	20Hz ~ 20kHz ± 0.06dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	116dB
THD+N	-100dB @ 8dB ゲイン
ノイズ EIN (A 特性)	-127dBu
最大入力レベル (最小ゲイン)	16dBu
ゲインレンジ	69dB
入力インピーダンス	3kΩ

ライン入力

周波数特性	20Hz ~ 20kHz ± 0.05dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	115.5dB
THD+N	-100dB @ 8dB ゲイン
最大入力レベル (最小ゲイン)	22dBu
ゲインレンジ	69dB
入力インピーダンス	24kΩ

楽器入力

周波数特性	20Hz ~ 20kHz ± 0.05dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	113dB
THD+N	-80dB @ 最小ゲイン
最大入力レベル (最小ゲイン)	12dBu
ゲインレンジ	62dB
入力インピーダンス	1MΩ

ライン出力 (バランス)

周波数特性	20Hz - 20kHz ± 0.02dB
ダイナミックレンジ (A 特性)	122dB
THD+N	-112dB
最大出力レベル	16dBu

ライン出力 (バランス)

出力インピーダンス	200Ω
-----------	------

ヘッドフォン出力

周波数特性	20Hz - 20kHz ± 0.1dB @ 33Ω / 300Ω
ダイナミックレンジ (A 特性)	112dB @ 33Ω
	116dB @ 300Ω
THD+N	-100dB @ 33Ω (最小)
	-110dB @ 300Ω (最小)
最大出力レベル	5dBu (33Ω)
	11dBu (300Ω)
最大出力電力	57mW (33Ω)
	27mW (300Ω)
出力インピーダンス	11Ω

物理的特性と電気的特性

アナログ入力

コネクタ	リアパネル Neutrik® XLR/6.35mm (1/4 インチ) TRS コンボ・ジャック・ソケット x 8
マイク/ライン切替	フロントパネル 6.35mm (1/4 インチ) ジャック入力 x 2
ファンタム電源 (48V)	自動
ライン/インストゥルメント切替	フロントパネル 48V (ファンタム電源) ボタンまたはソフトウェア内スイッチ
オートゲイン	フロントパネル Inst ボタンまたはソフトウェア内スイッチ
クリップセーフ	フロントパネル Auto ボタンまたはソフトウェア内スイッチ
AIR モード	フロントパネル Safe ボタン
	フロントパネル Air ボタンまたはソフトウェア内スイッチ


アナログ出力

バランス出力	6.35mm (1/4 インチ) バランス・ジャック出力 x 10
	<ul style="list-style-type: none"> スピーカー出力 x 4 (Main x 2、ALT x 2) ライン出力 x 6
ヘッドフォン出力	フロントパネル・ステレオ 6.35mm (1/4 インチ) TRS ジャック・ソケット x 2
メイン出力レベルコントロール	デジタル制御エンコーダー
ヘッドフォンレベルコントロール	フロントパネルアナログコントロールノブ

その他の入出力

USB	USB-C コネクタ
ADAT	8 チャンネル@44.1/48kHz 8 チャンネル@88.2/96kHz 176.4/192kHz では使用不可
S/PDIF	2 チャンネルのコアキシャル 最大 96kHz
ワード・クロック	BNC コネクタ出力 x1

フロントパネルのインジケータ

チャンネル選択	白/緑 LED (チャンネル 1 および 2)
Select ボタン	白/緑 Select LED
48V	白/緑 48V LED (選択チャンネルによる)
Inst	白/緑 Inst LED (選択チャンネルによる)
Auto	白 Auto LED (オートゲインの開始)
Clip Safe	白/緑 Safe LED (選択チャンネルによる)
Air Mode	白/緑/橙 Air LED (選択チャンネルと選択中の Air モードによる)
出力レベルメーター	白/緑/橙 Air LED (選択チャンネルと選択中の Air モードによる)
USB	USB 

重量および寸法

重量	3.3kg (7.29lbs)
高さ	47 mm (1.83")
幅	442 mm (17.4")
奥行	260 mm (10.23")

動作環境

動作気温	最大動作温度 : 40°C / 104°F
------	-----------------------

Scarlett 18i20 各入力チャンネル

シングルバンド - 44.1kHz および 48kHz

DAW 入力	入力
1	Mic/Line/Inst 1
2	Mic/Line/Inst 2
3	Mic/Line 3
4	Mic/Line 4
5	Mic/Line 5
6	Mic/Line 6
7	Mic/Line 7
8	Mic/Line 8
9	Loopback 1
10	Loopback 2
11	S/PDIF L コアキシャルまたはオプティカル (S/PDIF モードによる) [57] [57]
12	S/PDIF R コアキシャルまたはオプティカル (S/PDIF モードによる) [57] [57]
13	ADAT 1
14	ADAT 2
15	ADAT 3
16	ADAT 4
17	ADAT 5
18	ADAT 6
19	ADAT 7
20	ADAT 8

デュアルバンド - 88.1kHz および 96kHz

DAW 入力	ハードウェア入力	ADAT モード: デュアル
1	Mic/Line/Inst 1	Mic/Line/Inst 1
2	Mic/Line/Inst 2	Mic/Line/Inst 2
3	Mic/Line 3	Mic/Line 3
4	Mic/Line 4	Mic/Line 4
5	Mic/Line 5	Mic/Line 5
6	Mic/Line 6	Mic/Line 6
7	Mic/Line 7	Mic/Line 7
8	Mic/Line 8	Mic/Line 8
9	Loopback 1	Loopback 1
10	Loopback 2	Loopback 2
11	S/PDIF L コアキシャルまたはオプティカル (S/PDIF モードによる) [57] [57]	ADAT 1.1
12	S/PDIF R コアキシャルまたはオプティカル (S/PDIF モードによる) [57] [57]	ADAT 1.2
13	ADAT 1	ADAT 1.3
14	ADAT 2	ADAT 1.4
15	ADAT 3	ADAT 2.1
16	ADAT 4	ADAT 2.2
17		ADAT 2.3
18		ADAT 2.4

クワッドバンド - 176.4kHz and 192kHz

DAW 入力	ハードウェア入力
1	Mic/Line/Inst 1
2	Mic/Line/Inst 2
3	Mic/Line 3
4	Mic/Line 4
5	Mic/Line 5
6	Mic/Line 6
7	Mic/Line 7
8	Mic/Line 8
9	Loopback 1
10	Loopback 2

その他の情報

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するお問い合わせは、Focusrite ヘルプセンター support.focusrite.com にアクセスしてください。

著作権および法定通知

Focusrite は Focusrite Group PLC の登録商標です。Scarlett は Focusrite Group PLC の商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。

2025 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

クレジット

Focusrite は、本製品のために尽力してくれた以下の Scarlett 4th Gen チームメンバーに感謝いたします。

Aarron Beveridge, Adam Watson, Adrian Dyer, Adrien Fauconnet, Alex Middleton-Dalby, Alice Rizzo, Alistair Smith, Andy Normington, Andy Poole, Andy West, Arne Gödeke, Bailey Dayson, Bamber Haworth, Bash Ahmed, Ben Allim, Ben Bates, Ben Cochrane, Ben Dandy, Benjamin Dunn, Bran Searle, Callum Denton, Carey Chen, Cerys Williams, Chris Graves, Dan Clarke, Dan Stephens, Dan Weston, Daniel Hughley, Daniel Johnson, Danny Nugent, Dave Curtis, David Marston, Derek Orr, Ed Fry, Ed Reason, Eddie Judd, Ellen Dawes, Emma Davies, Flavia Ferreira, Greg Westall, Greg Zielinski, Guillem Allepuz, Hannah Williams, Harry Morley, Hasan Saeed, Ian Hadaway, Isaac Harding, Jack Cole, Jack Holyoak, Jake Wignall, James Hollowell, James Otter, Jason Cheung, Jed Fulwell, Jerome Noel, Jesse Mancia, Joe Crook, Joe Deller, Josh Wilkinson, Joe Munday, Joe Noel, Jon Jannaway, Julia Laeger, Kai Van Dongen, Keith Burton, Kiara Holm, Kieran Rigby, Krischa Tobias, Lars Henning, Laurence Clarke, Loz Jackson, Luke Piotrak, Luke Mason, Marc Smith, Mark Greenwood, Martin Dewhirst, Martin Haynes, Mary Browning, Massimo Bottaro, Matt Morton, Matt Richardson, Max Bailey, Michalis Fragkiadakis, Mick Gilbert, Mike Richardson, Nicholas Howlett, Nick Lyon, Nick Thomson, Oliver Tapley, Olly Stephenson, Paul Chana, Paul Shufflebotham, Pete Carss, Pierre Ruiz, Richard Carvalho, Richard Walters, Robert Blaauboer, Robert Mitsakov, Ross Chisholm, Sam Lewis, Samuel Price, Sandor Zsuga, Sebastian Heinz, Simon Burges, Stefan Archer, Stefan Elmes, Steve Bush, Stratis Sofianos, Taavi Bonny, Taren Gopinathan, Tom Carter, Tom Haines, Tony Pow, Valeria Cirillo, Will Hoult, Will Munn, Will Thomas, Vidur Dahiya, Wade Dawson, Zih-Syuan Yang.

執筆 : Ed Fry